

ひとり親世帯等の子育てに関する
アンケート調査報告書

平成28年12月

秋 田 県

目 次

1 調査の概要	1
(1) 調査の目的	3
(2) 調査対象	3
(3) 調査地域	3
(4) 調査方法	3
(5) 調査期間	3
(6) 回答状況	3
(7) 調査事項	4
① 暮らしの様子	4
② 子どもの生活に関する事項	4
③ 子育てに関する困りごと	4
(8) 調査結果における留意事項	4
① 貧困世帯等について	4
② 集計結果について	5
2 調査の結果	7
(1) 暮らしの様子（基本的な項目）について	9
① 性別	9
② 年齢	9
③ ひとり親世帯になった理由	10
④ 就労形態	10
⑤ 世帯員数	11
⑥-1 貧困世帯の状況	11
2 貧困世帯の状況（男女別）	12
3 平均年収（可処分所得）	12
4 年代別の平均年収（可処分所得）	13
5 就労形態別の平均年収（可処分所得）	14
6 年収（可処分所得）別分布	15
7 等価可処分所得別分布	15
8 収入に対する実感（等価可処分所得別満足度）	16
⑦ 現在利用している支援制度	17

(2) 子どもの生活に関する事項について	1 8
① 3度の食事（朝食・昼食・夕食 いずれも）	1 9
② 手作りの夕食（少なくとも1品）	2 0
③ いっしょに食事をとること（朝食と夕食いずれも）	2 1
④ 医者・歯医者に行くこと（具合が悪い時に）	2 2
⑤ 新しい洋服（少なくとも年1回は買う）	2 3
⑥ 子ども部屋	2 4
⑦ 友達を家に呼ぶこと	2 5
⑧ 高校までの教育	2 6
⑨ 短大・大学までの教育	2 7
⑩ おもちゃやボールなどの遊び道具	2 8
⑪ 年齢にあった絵本や本	2 9
⑫ 習い事（スポーツ、ピアノ、英会話など）	3 0
⑬ 塾（中学生以上の子どもに）	3 1
⑭ 適当な額のおこづかい（小学生以上の子どもに）	3 2
⑮ 携帯電話やスマートフォン（中学生以上の子どもに）	3 3
⑯ 誕生日やクリスマスのお祝・プレゼント	3 4
⑰ 動物園や水族館に行くこと（年に1回程度）	3 5
⑱ 1泊以上の家族旅行に行くこと（年に1回程度）	3 6
(3) 子育てに関する事項について	3 7
① 子どもに要する経費に関する困りごと	3 8
② 子どもの食生活に関する心配ごと	4 0
③ 子どもの人づき合いに関する心配ごと	4 1
④ 子どもの学習に関する心配ごと	4 2
⑤ 子どもの進学に関する心配ごと	4 3
(4) 親の悩みに関する事項について	4 5
① 就労に関する悩みごと	4 5
② 相談環境に関すること	4 7
(5) 子どもの将来に関する心配ごとについて	4 9
3 統計表	5 1
○アンケートの対象世帯数、回答世帯数、回答率	5 3
○収入別集計対象世帯	5 3

(1) 暮らしの様子（基本的な項目）について	5 4
① 性別、② 年齢、⑥－2 貧困世帯の状況（男女別）	5 4
③ ひとり親世帯になった理由	5 6
④ 就労形態	5 8
⑤－1 世帯員数	6 0
2 世帯の子どもの数（高校生等以下）	6 2
3 子どもの就学状況別世帯数	6 4
4 子どもの数、⑥－1 貧困世帯の状況	6 4
5 世帯数及び世帯員数、⑥－1 貧困世帯の状況	6 4
⑥－3 平均年収、⑥－4 年代別の平均年収（可処分所得）	6 5
3 平均年収、⑥－5 就労形態別の平均年収（可処分所得）	6 5
6－1 年収（可処分所得）別分布	6 6
6－2 年収（可処分所得）別分布・満足度	6 7
7 等価可処分所得別分布・満足度1	6 8
8 等価可処分所得別分布・満足度2	6 9
⑦ 現在利用している支援制度	7 0
(2)－1 子どもの生活に関する事項について（子どもの就学状況別）	7 1
2 子どもの生活に関する事項について（年代別）	7 8
3 子どもの生活に関する事項について（就労形態別）	8 8
(3)－1 子育てに関する事項について	9 8
2 子育てに関する事項について（子どもの就学状況別）	1 0 0
3 子育てに関する事項について（年代別）	1 0 3
4 子育てに関する事項について（就労形態別）	1 0 6
(4)－1 親の悩みに関する事項について	1 1 1
2 親の悩みに関する事項について（子どもの就学状況別）	1 1 2
3 親の悩みに関する事項について（年代別）	1 1 3
4 親の悩みに関する事項について（就労形態別）	1 1 4
(5)－1 子どもの将来に関する心配ごとについて	1 1 6
2 子どもの将来に関する心配ごとについて（子どもの就学状況別）	1 1 7
3 子どもの将来に関する心配ごとについて（年代別）	1 1 8
4 子どもの将来に関する心配ごとについて（就労形態別）	1 1 9
4 付属資料	1 2 1
アンケート用紙	1 2 3

1 調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

国が実施した国民生活基礎調査によると、平成 24 年におけるわが国の子どもの相対的貧困率は 16.3%であり、これまでで最も高い結果となっている。

このような中、本県では平成 27 年度に「秋田県子どもの貧困対策推進計画」を策定し、各市町村とともに、子どもの将来が生まれ育った環境に左右されることのない社会の実現に向けて対策を進めている。

本調査は、経済的基盤が比較的脆弱とされるひとり親世帯等について、各世帯の収入や子どもの生活、子育てに関する事項を把握し、効果的な「子どもの貧困対策」の策定に資することを目的として実施した。

(2) 調査対象

アンケートは、ひとり親世帯等を対象に実施した。

ひとり親世帯等 11,697 世帯

・ひとり親世帯 11,591 世帯

(20 歳未満の子どもを養育している配偶者のない者の世帯及び父母でない者が子どもを養育している世帯)

・ひとり親以外の生活保護受給世帯 106 世帯

(18 歳以下の子どもを養育している生活保護受給世帯)

(3) 調査地域

全県 25 市町村

(4) 調査方法

往復郵送による無記名アンケート方式

(各市町村が作成した対象世帯の宛名ラベルを県の封筒に貼付して郵送し、同封した返信用封筒により無記名で回答を受けた。ただし、ひとり親以外の生活保護受給世帯については、各福祉事務所から郵送又は手渡しによりアンケート用紙を配布した。)

(5) 調査期間

平成 28 年 6 月から 8 月まで (集計対象は 10 月末日までの回答分)

(6) 回答状況

アンケートの対象世帯数、回答世帯数、回答率は次のとおりである。

対 象	対象世帯数	回答世帯数	回答率
ひ と り 親 世 帯 等	11,591	4,293	37.0%
ひとり親以外の生活保護受給世帯	106	30	28.3%
合 計	11,697	4,323	37.0%

(7) 調査事項

アンケートは、「くらしの様子」（基本的な項目）、「子どもの生活に関する事項」（剥奪指標）及び「子育てに関する困りごと」（支援を必要としている内容）の3項目とした。

① くらしの様子

世帯の基本情報として、居住市町村、性別、年齢、ひとり親世帯等になった理由、就労形態、家族構成、利用している支援制度の項目を設定した。

また、貧困の状況を簡易に測定するため、年収の項目を設定するとともに、収入についての満足度の項目も設定した。

② 子どもの生活に関する事項

社会の中で期待される一定水準の生活に必要とされる、衣食住や教育・医療・社会活動などの項目として、18項目を設定した。

③ 子育てに関する困りごと

子どもに要する経費、子どもの食生活、子どもの人づき合い、子どもの学習、子どもの進学、子どもの将来に関する心配ごとについての項目を設定するとともに、養育者の就労希望や相談環境についての項目を設定した。

また、困っていることや支援してほしいことについて、自由記述欄を設けた。

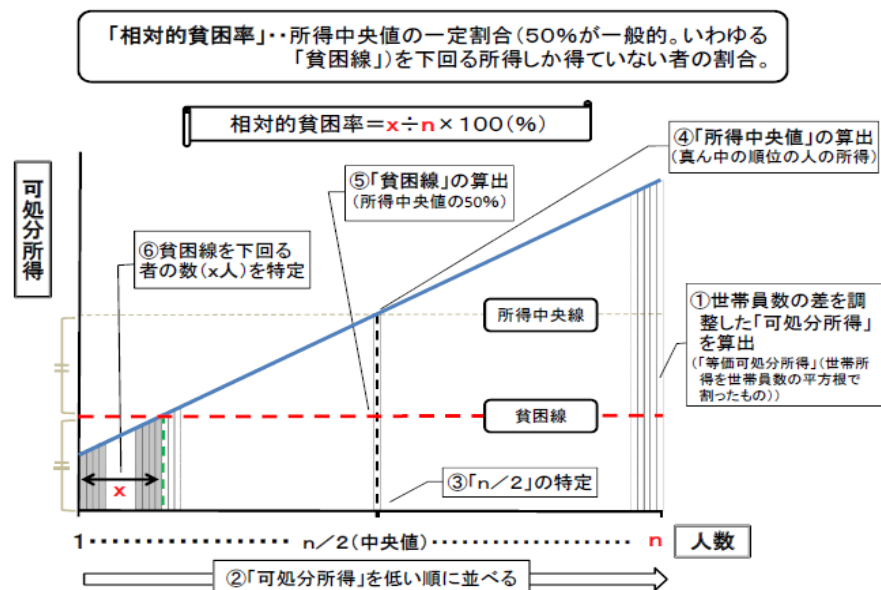
(8) 調査結果における留意事項

① 貧困世帯等について

本報告書では、直近の国民生活基礎調査の貧困線（平成24年：等価可処分所得122万円）を基準とし、貧困線未満の世帯を「貧困世帯」、貧困線以上の世帯を「非貧困世帯」とした。

[参考] 国民生活基礎調査による相対的貧困率の算出方法

- 1 可処分所得：収入から税金・社会保険料等を除いた、いわゆる手取り収入
- 2 等価可処分所得：世帯の可処分所得を世帯員数の平方根で割って調整した所得
- 3 貧困線：等価可処分所得の中央値の半分の額
- 4 相対的貧困率：貧困線を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合



② 集計結果について

集計結果について、分母に占める割合（％）は、小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことや、説明文と相違することがある。なお、各割合を算出するための項目の分母（標本サイズ）を「n＝〇〇」と表記している。

また、世帯の収入別集計又は貧困線の上下別の集計に当たっては、収入等無回答の世帯（322）、回答状況から明らかに収入が相違していると思われる世帯（世帯員1人当たりの年収が24万円（生活保護における3級地の母子3人世帯の一人当たり夏季基準生活費（加算除く）の概ね1/2）以下の世帯（183）及び各種手当を受給しながらも所得上限額を大幅に超過（世帯員一人当たりの年収が1,000万円以上）している世帯（1）は、集計対象外とした。

※総回答数：4,323、収入別集計対象世帯（以下「集計対象世帯」という。）：3,817、
収入別集計対象外世帯：506

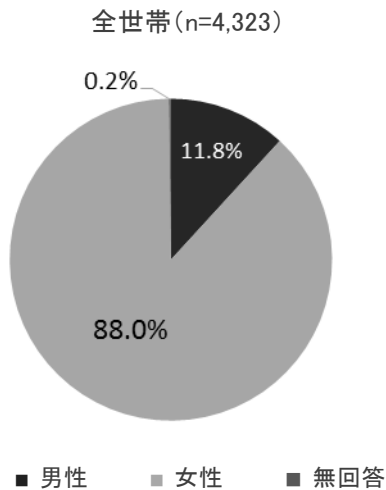
2 調査の結果

2 調査の結果

(1) 暮らしの様子（基本的な項目）について

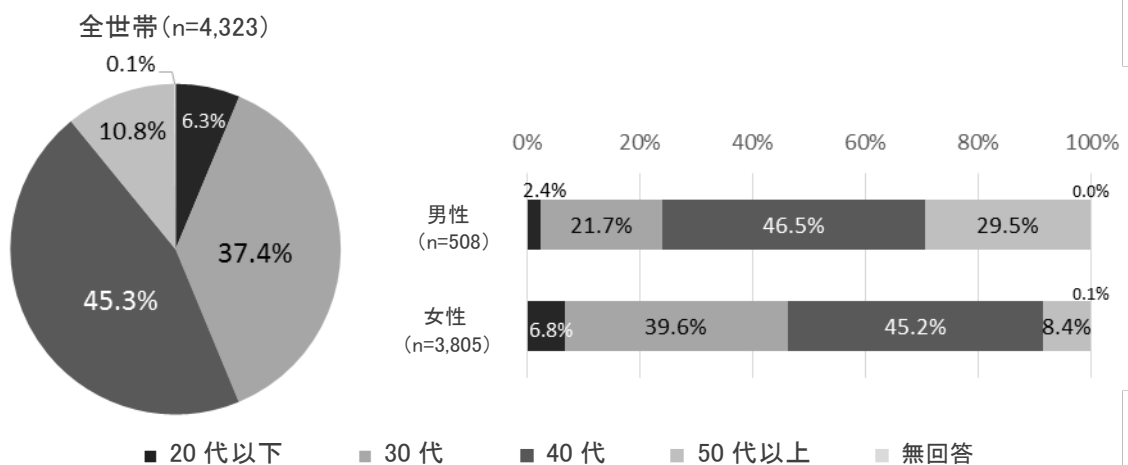
① 性別

女性が 88.0%、男性が 11.8%である。



② 年齢

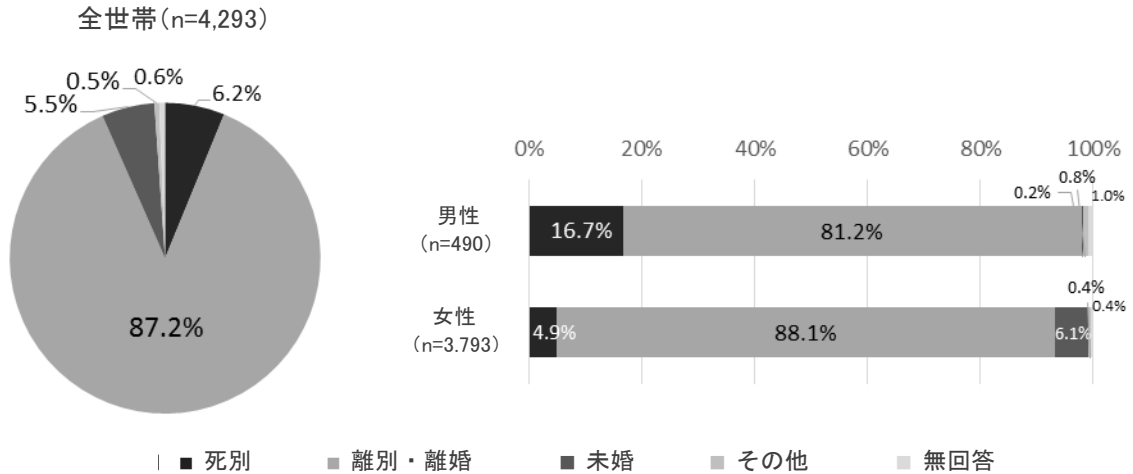
「20代以下」が6.3%、「30代」が37.4%、「40代」が45.3%、「50代以上」が10.8%となっている。「40代」が最も多く、次いで「30代」となっており、この2つの年代で全体の82.7%を占めている。また、男女別の比率は、「20代以下」が男性の2.4%に対し女性が6.8%で2.83倍、「30代」が男性の21.7%に対し女性が39.6%で1.82倍、「50代以上」が男性の29.5%に対し女性が8.4%で約2/7となっており、女性よりも男性の年齢が高い傾向にある。



③ ひとり親世帯になった理由

「離別・離婚」が 87.2%、「死別」が 6.2%、「未婚」が 5.5%となっており、男女別でも「離別・離婚」によるものがともに 80%を超えている(ひとり親以外の生活保護受給世帯を除く。)

また、「未婚」によるものは男性の 0.2%に対し女性が 6.1%で約 30 倍、「死別」によるものは男性の 16.7% に対し女性が 4.9%で約 1/3 となっている。

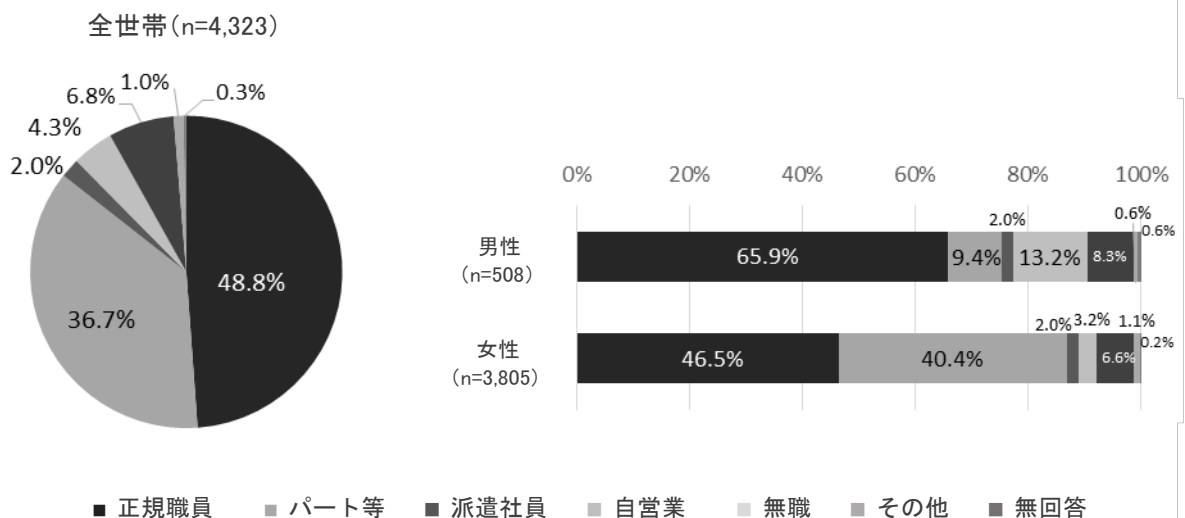


④ 就労形態

「正規の職員・従業員」(以下「正規職員」という。)が 48.8%、「パート・アルバイト等」(以下「パート等」という。)が 36.7%である。男性は、「正規職員」(65.9%)が最も多く、次いで「自営業」(13.2%)、「パート等」(9.4%)となっており、女性は、「正規職員」(46.5%)が最も多く、次いで「パート等」(40.4%)、「無職」(6.6%)となっている。

男性の 65.9%が「正規職員」であるのに対し、女性は 46.5%となっている一方、「パート等」は男性が 9.4%であるのに対し、女性は 40.4%となっているなど、男性と比較して女性の労働環境が不安定なことが読み取れる。

また、その他としては、内職・在宅ワーク、会社役員等があった。

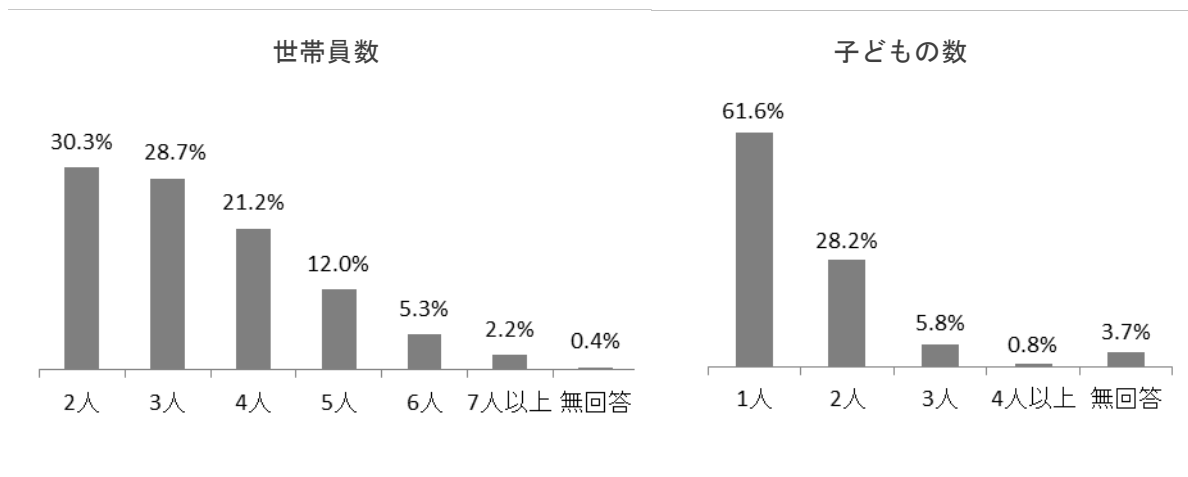


⑤ 世帯員数

「2人」(30.3%)が最も多く、次いで「3人」(28.7%)、「4人」(21.2%)、「5人」(12.0%)、「6人」(5.3%)、「7人以上」(2.2%)となっている。

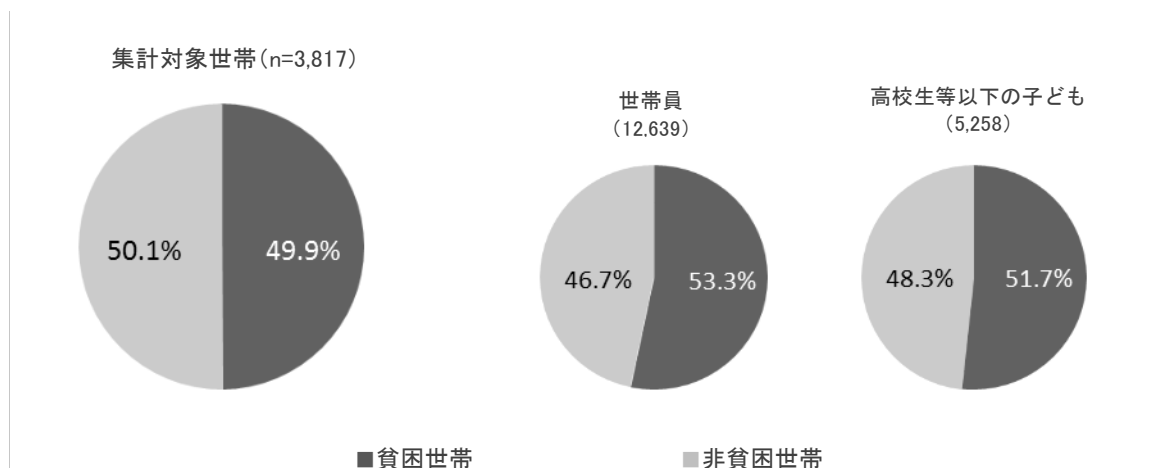
また、子どもの数(高校生等以下)は「1人」(61.6%)が最も多く、次いで「2人」(28.2%)、「3人」(5.8%)、「4人以上」(0.8%)となっており、最多は7人となっている。

(n=4,323)



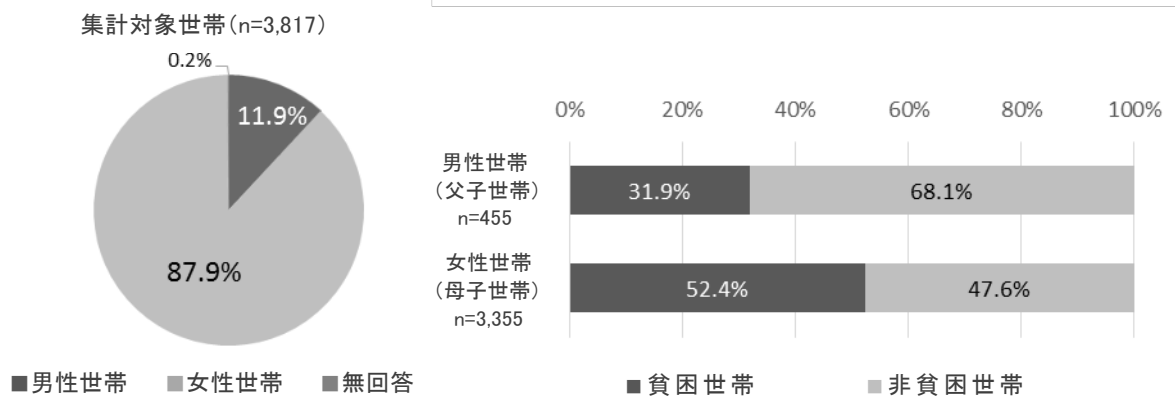
⑥-1 貧困世帯の状況

貧困世帯は1,905世帯(49.9%)で、非貧困世帯は1,912世帯(50.1%)であり、ほぼ半数が貧困世帯となっている。また、貧困世帯に属する者は6,732人(53.3%)、非貧困世帯に属する者は5,907人(46.7%)、高校生等以下の子どものうち、貧困世帯に属する子どもは2,720人(51.7%)、非貧困世帯に属する子どもは2,538人(48.3%)となっている。



⑥-2 貧困世帯の状況（男女別）

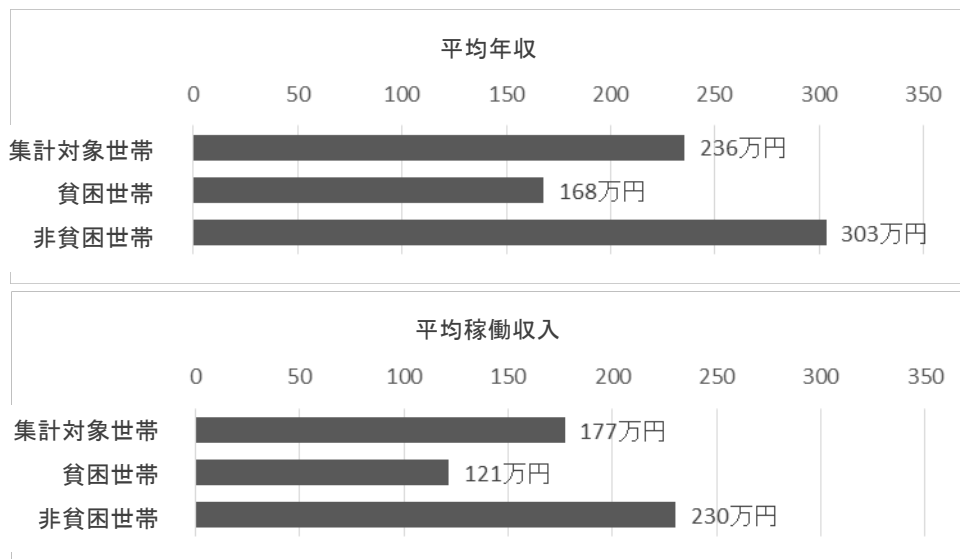
貧困世帯の占める割合は、世帯主等が男性世帯の場合で 31.9%に対し、女性世帯の場合は 52.4%となっている。



⑥-3 平均年収（可処分所得）

平均年収(可処分所得)は 236 万円であるが、貧困世帯は 168 万円、非貧困世帯は 303 万円で貧困世帯の 1.80 倍になっている。また、平均稼働収入(可処分所得)は 177 万円であるが、貧困世帯は 121 万円、非貧困世帯は 230 万円で貧困世帯の 1.90 倍になっており、平均年収と同様の傾向になっている。

(n=3,817)

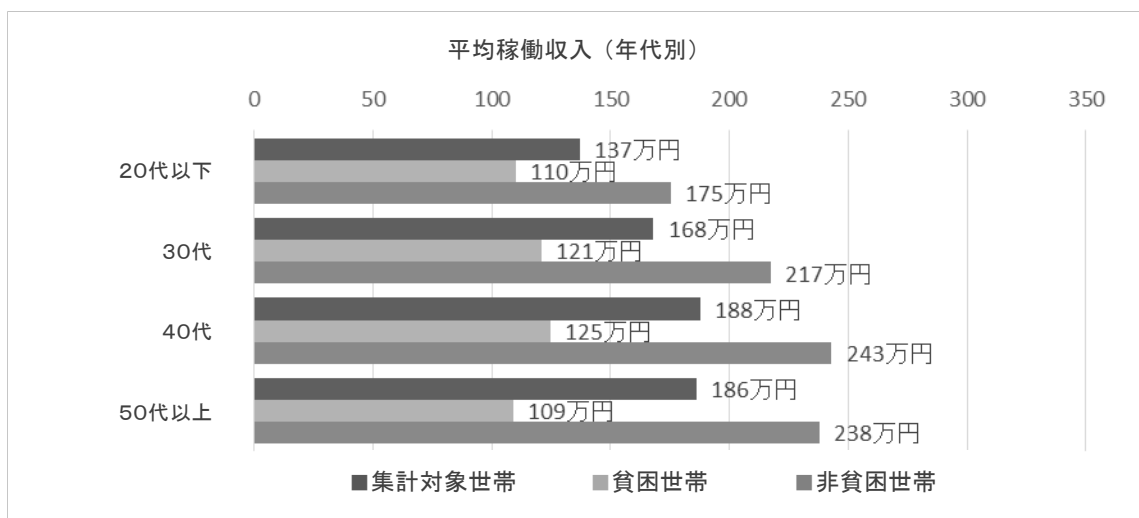
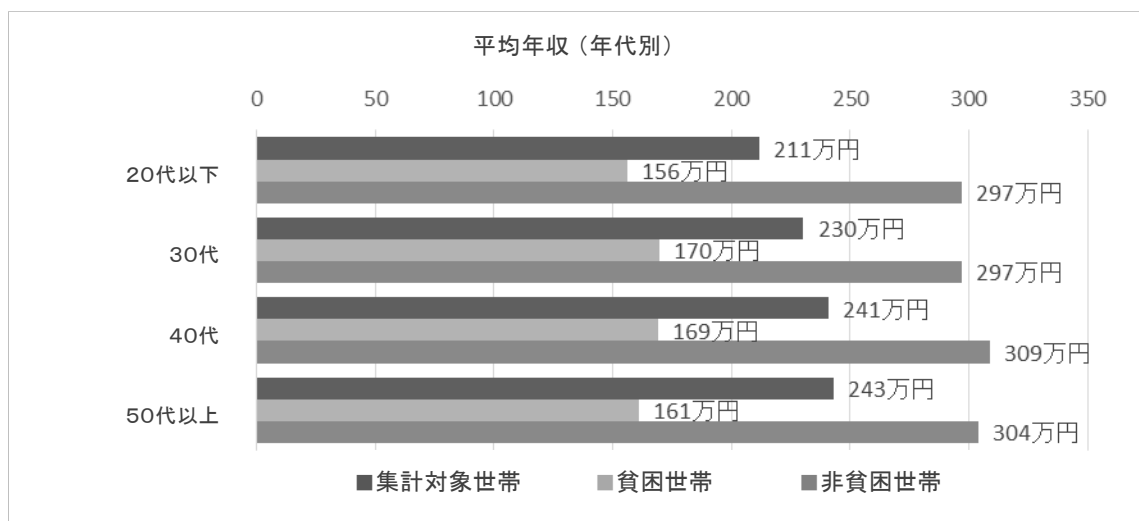


⑥-4 年代別の平均年収（可処分所得）

平均年収（可処分所得）は「20代以下世帯」が211万円、「50代以上世帯」が243万円で「20代以下世帯」の1.15倍と年代が上がるにつれて上昇する傾向にある。貧困世帯では、「20代以下世帯」が156万円、「30代世帯」が170万円で、「20代以下世帯」の1.09倍になっている。非貧困世帯では、全ての年代で300万円前後と、ほぼ同程度の収入になっている。

平均稼働収入（可処分所得）も、平均年収と同様の傾向にあり、「20代以下世帯」が137万円、「40代世帯」が188万円で「20代以下世帯」の1.37倍になっている。貧困世帯では、「50代以上世帯」が109万円、「40代世帯」が125万円で「50代以上世帯」の1.15倍になっている。非貧困世帯では、「20代以下世帯」が175万円、「40代世帯」が243万円で「20代以下世帯」の1.39倍になっている。

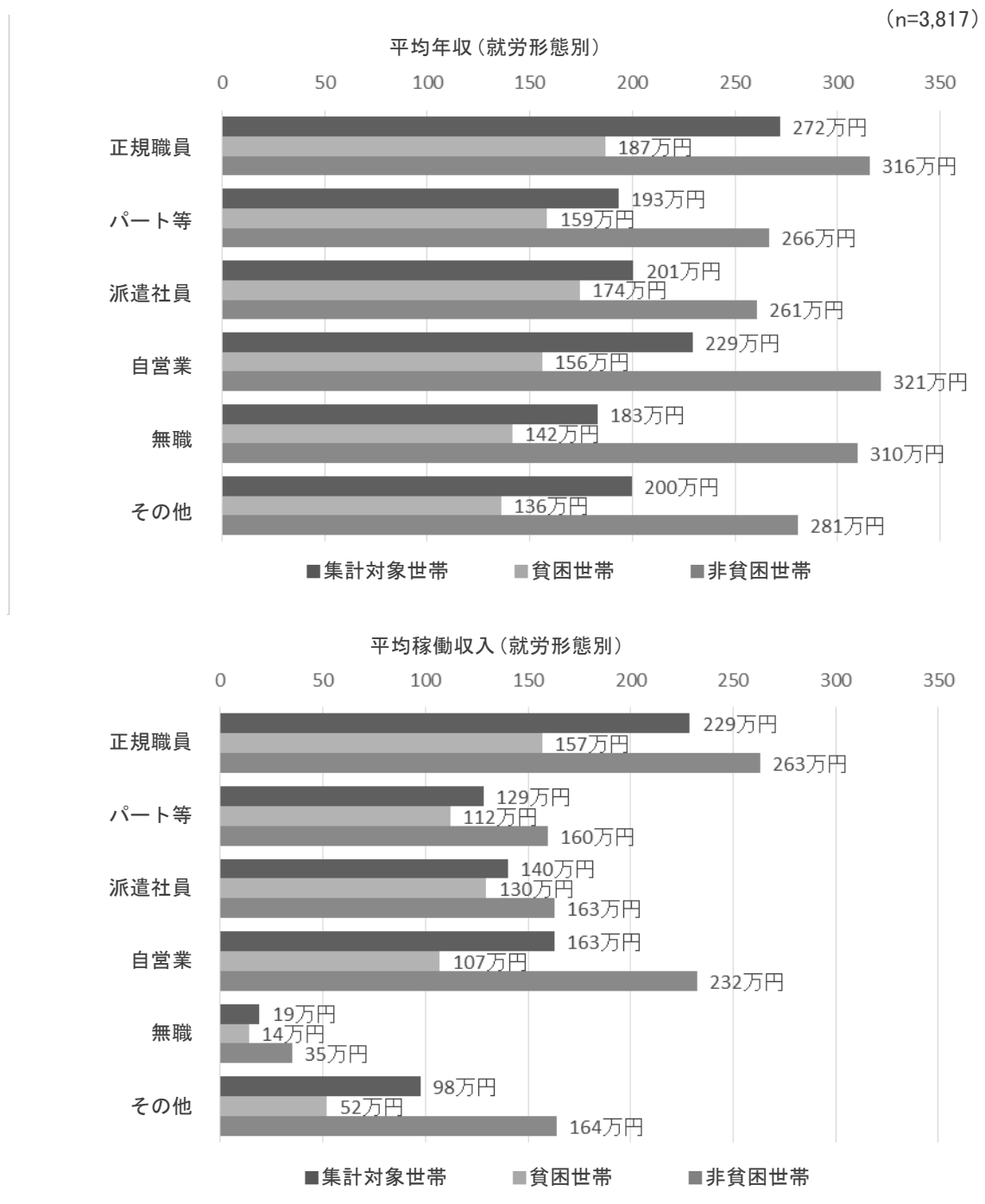
(n=3,817)



⑥-5 就労形態別の平均年収（可処分所得）

平均年収（可処分所得）は「無職世帯」が183万円、「正規職員世帯」が272万円で、「無職世帯」の1.49倍になっている。貧困世帯では、「無職世帯」が142万円、「正規職員世帯」が187万円で、「無職世帯」の1.32倍になっている。非貧困世帯では、「派遣社員世帯」が261万円、「自営業世帯」が321万円で、「派遣社員世帯」の1.23倍になっている。

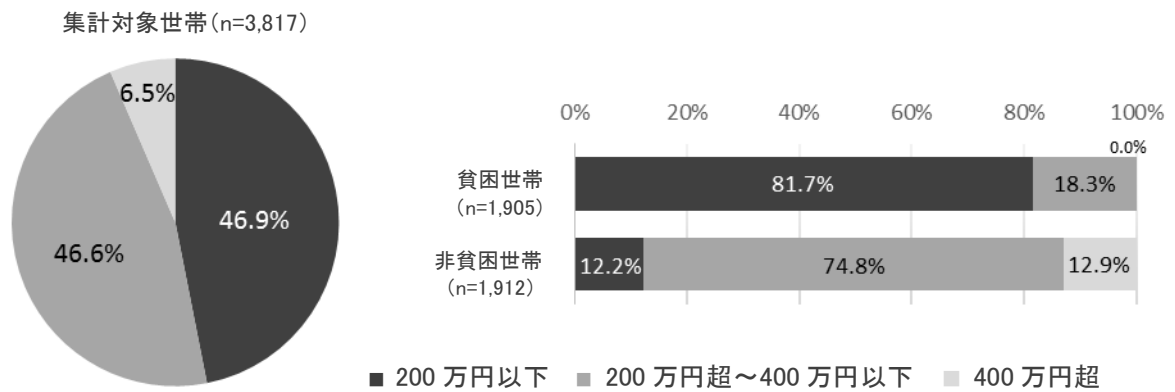
平均稼働収入（可処分所得）は、「パート等世帯」が129万円、「正規職員世帯」が229万円で、「パート等世帯」の1.78倍になっている。貧困世帯では、「自営業世帯」が107万円、「正規職員世帯」が157万円で、「自営業世帯」の1.47倍になっている。非貧困世帯では、「パート等世帯」が160万円、「正規職員世帯」が263万円で、「パート等世帯」の1.64倍になっている。



⑥-6 年収（可処分所得）別分布

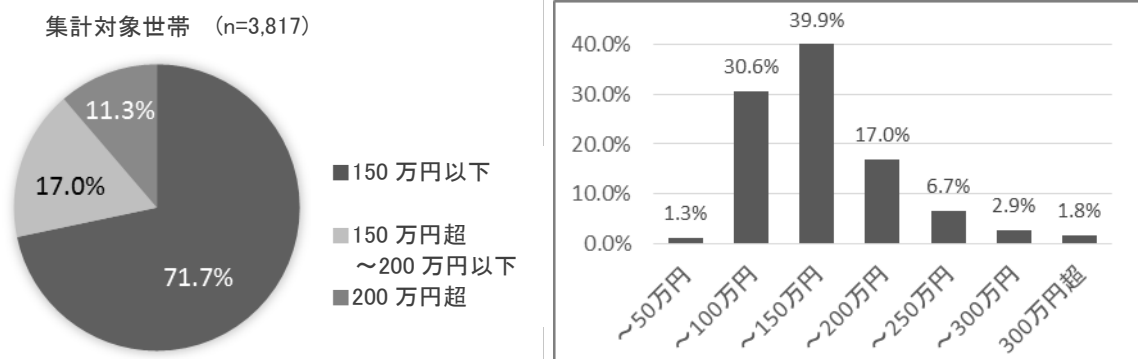
200万円以下が46.9%、200万円超～400万円以下が46.6%、400万円超が6.5%となっており、200万円以下には貧困世帯の81.7%と非貧困世帯の12.2%が含まれている。

また、200万円超～400万円以下には貧困世帯の18.3%と非貧困世帯の74.8%が含まれている



⑥-7 等価可処分所得別分布

150万円以下が71.7%、150万円超～200万円以下が17.0%、200万円超が11.3%となっている。



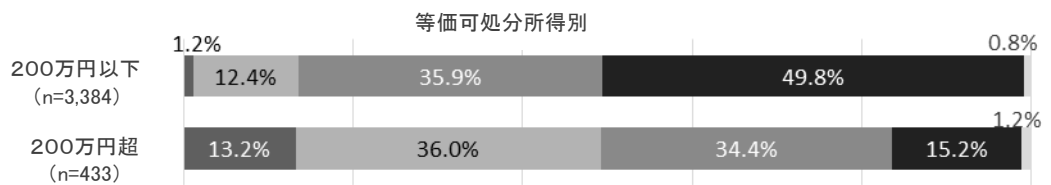
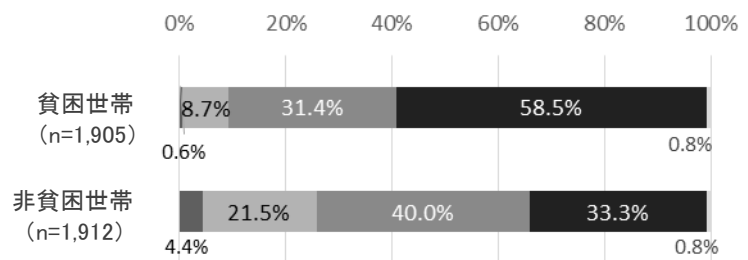
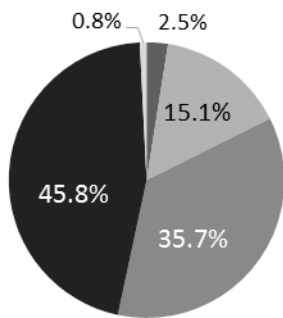
⑥-8 収入に対する実感（等価可処分所得別満足度）

収入について「足りている、だいたい足りている」と答えた世帯は17.6%、「やや足りていない、まったく足りていない」と答えた世帯は81.6%となっている。

また、「足りている、だいたい足りている」と答えた世帯は、貧困世帯では9.3%、非貧困世帯では25.9%となっている。

等価可処分所得別にみると、200万円以下の場合には「足りている、だいたい足りている」と答えた世帯が13.6%、「やや足りていない、まったく足りていない」と答えた世帯が85.6%であるが、200万円を超えるとそれぞれ49.2%、49.7%となる(統計表P69参照)。

集計対象世帯 (n=3,817)

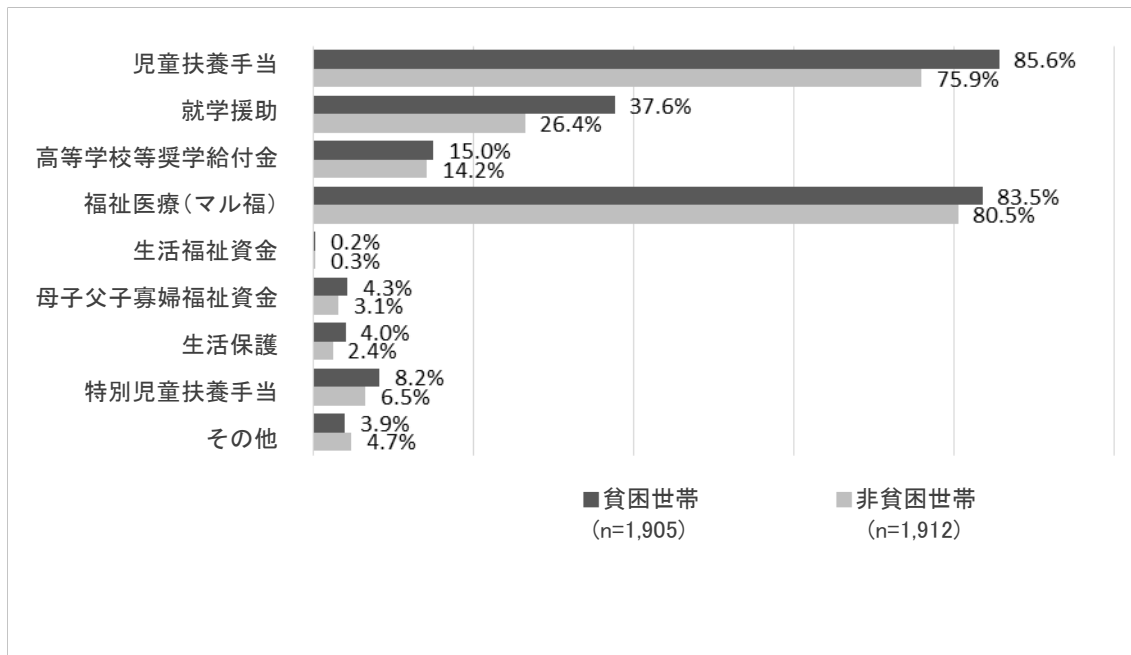
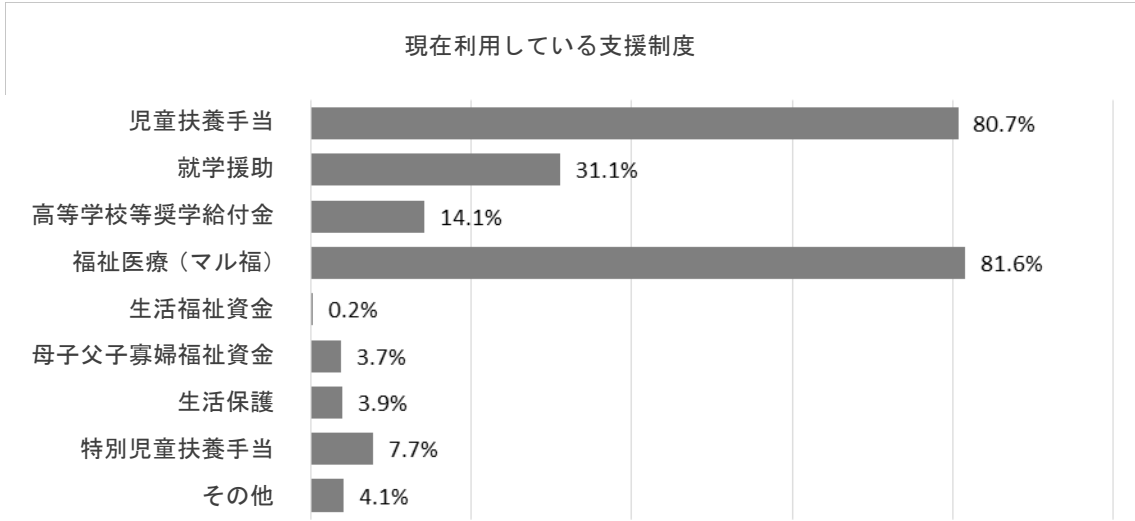


■ 足りている ■ だいたい足りている ■ やや足りていない ■ まったく足りていない ■ 無回答

⑦ 現在利用している支援制度

「福祉医療(マル福)」を利用している世帯が81.6%、「児童扶養手当」を受給している世帯が80.7%となっている。また、「就学援助」を利用している世帯は31.1%で、貧困・非貧困で比較すると、貧困世帯の方が11.2ポイント多くなっている。

(n=4,323)

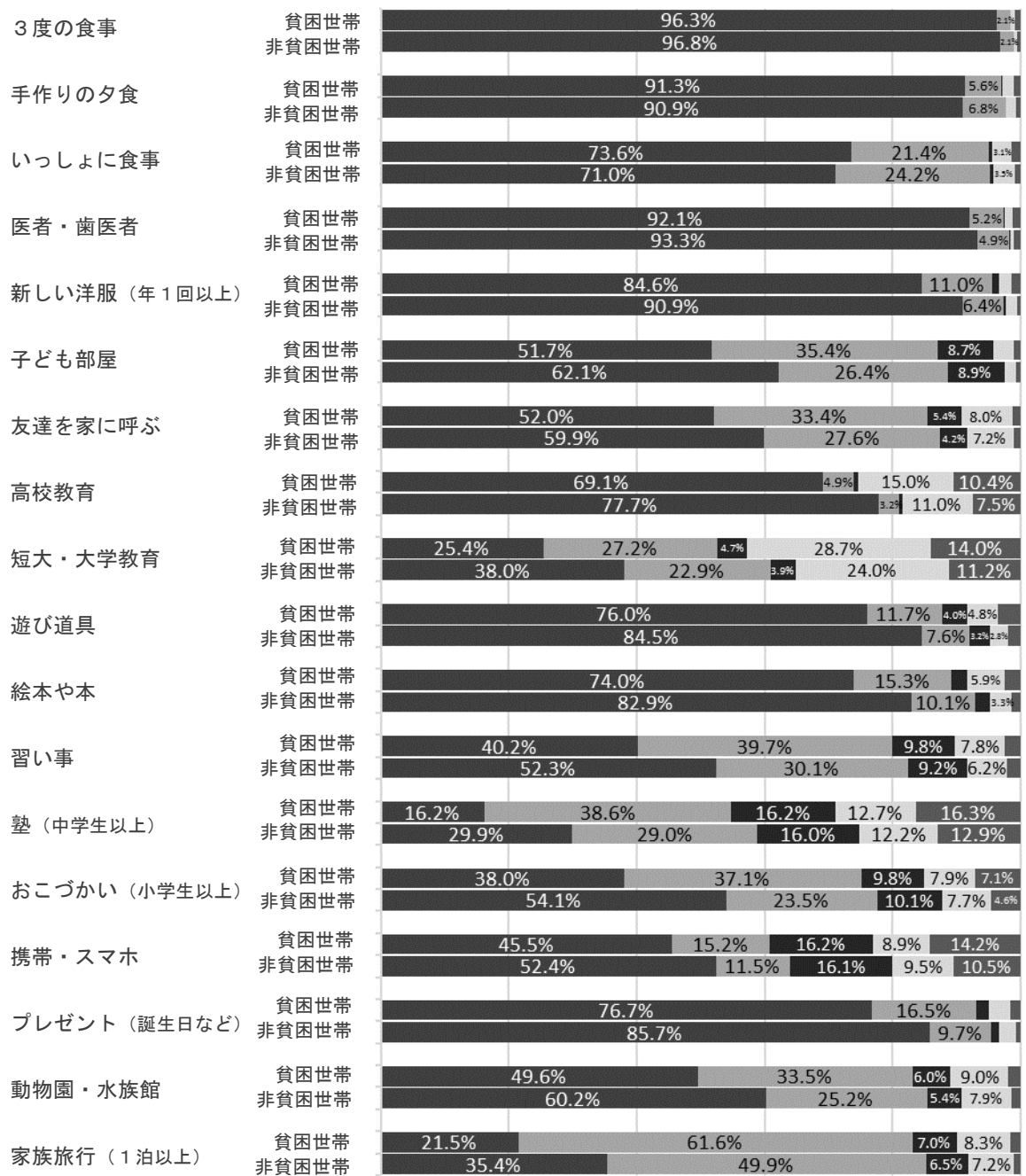


(2) 子どもの生活に関する事項について (貧困世帯：n=1,905、非貧困世帯：n=1,912)

社会の中で期待される一定水準の生活に必要なとされるいくつかの項目について、下記の質問区分で調査した。

貧困世帯と非貧困世帯の「与えている」と回答した割合を比較すると、「おこづかい（小学生以上）」で16.1ポイント、「家族旅行（1泊以上）」で13.9ポイント、「塾（中学生以上）」で13.7ポイント、「短大・大学教育」で12.6ポイント、「習い事」で12.1ポイントとそれぞれ貧困世帯で低くなっている。一方、食や医療に関する項目では大きな差はない。

「与えている」	… 与えている（与えていた、与えるつもり）
「与えられていない」	… 与えたいが、家庭の事情（経済・時間的な）で与えられていない
「与えていない」	… 必要だと思わないので、与えていない（与えていなかった、与えないつもり）
「どれとも言えない」	… どれとも言えない



■ 与えている ■ 与えられていない ■ 与えていない ■ どれとも言えない ■ 無回答

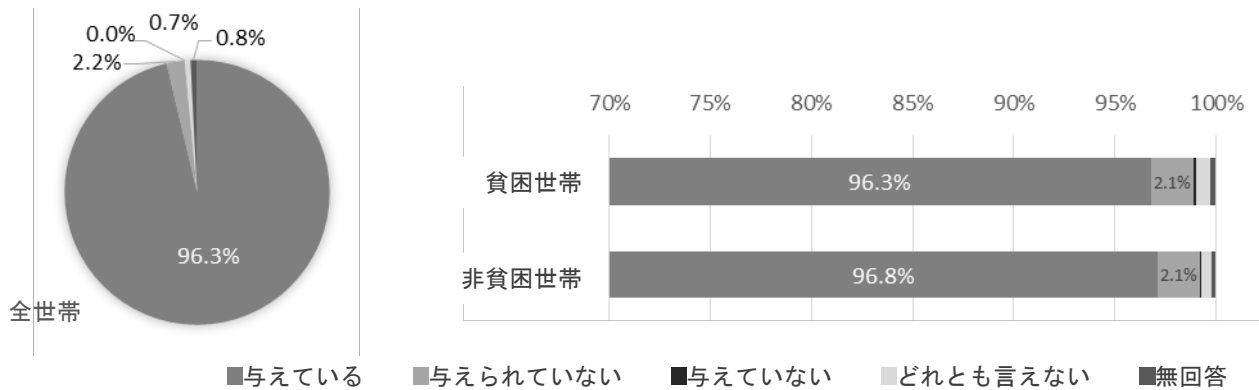
全世帯：n=4,323、貧困世帯：n=1,905、非貧困世帯：n=1,912

〔貧困世帯〕未就学：n=349、小学生：n=763、中学生：n=626、高校生等：n=635

〔非貧困世帯〕未就学：n=310、小学生：n=693、中学生：n=590、高校生等：n=667

① 3度の食事（朝食・昼食・夕食 いずれも）

「与えている」世帯は、全世帯の96.3%、貧困世帯の96.3%、非貧困世帯の96.8%となっており、いずれも95%以上である。就労形態別では貧困世帯の「派遣社員世帯」及び「自営業世帯」が、子どもの就学状況別では貧困世帯の「高校生等がいる世帯」がやや少なくなっている。

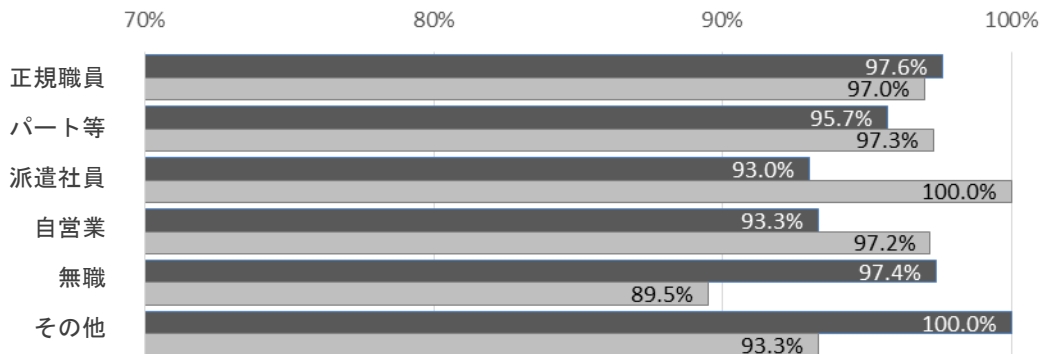


「与えている」の内訳

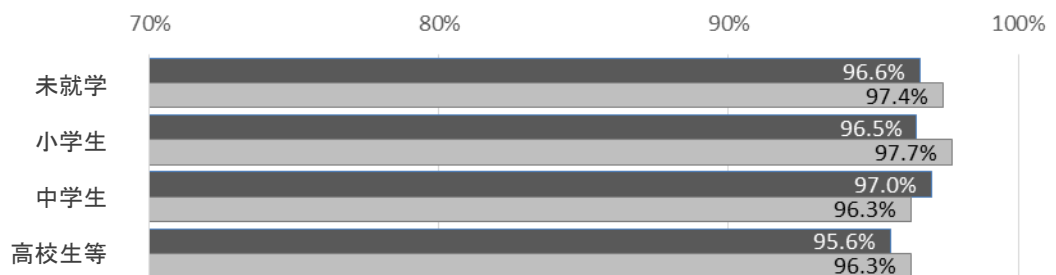
■ 貧困世帯

■ 非貧困世帯

就労形態別（3度の食事）70%～

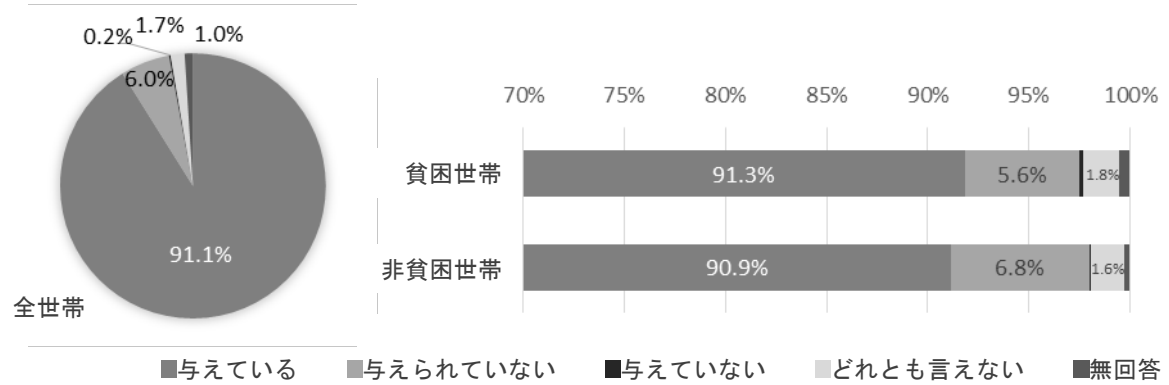


子どもの就学状況別（3度の食事）70%～



② 手作りの夕食（少なくとも1品）

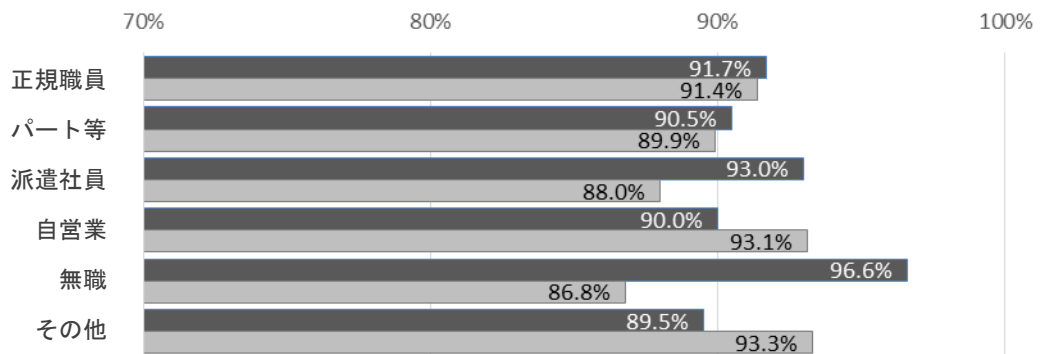
「与えている」世帯は、全世帯の91.1%、貧困世帯の91.3%、非貧困世帯の90.9%となっており、いずれも90%以上である。就労形態別では、非貧困世帯の「パート等世帯」、「派遣社員世帯」、「無職世帯」が90%に達しておらず、子どもの就学状況別では貧困世帯の「未就学児がいる世帯」及び非貧困世帯の「中学生がいる世帯」が90%に達していない。



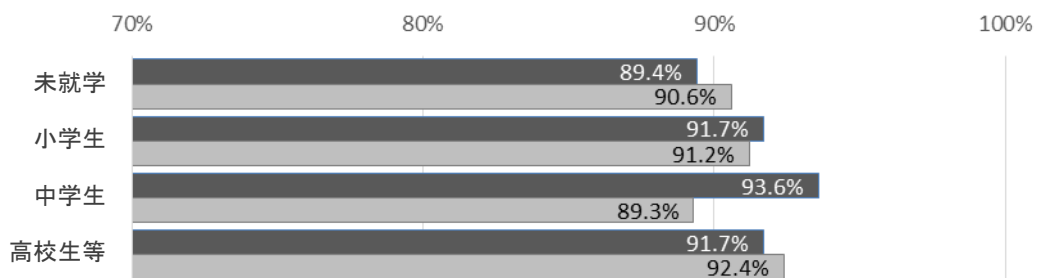
「与えている」の内訳

■ 貧困世帯 ■ 非貧困世帯

就労形態別（手作りの夕食）70%～



子どもの就学状況別（手作りの夕食）70%～

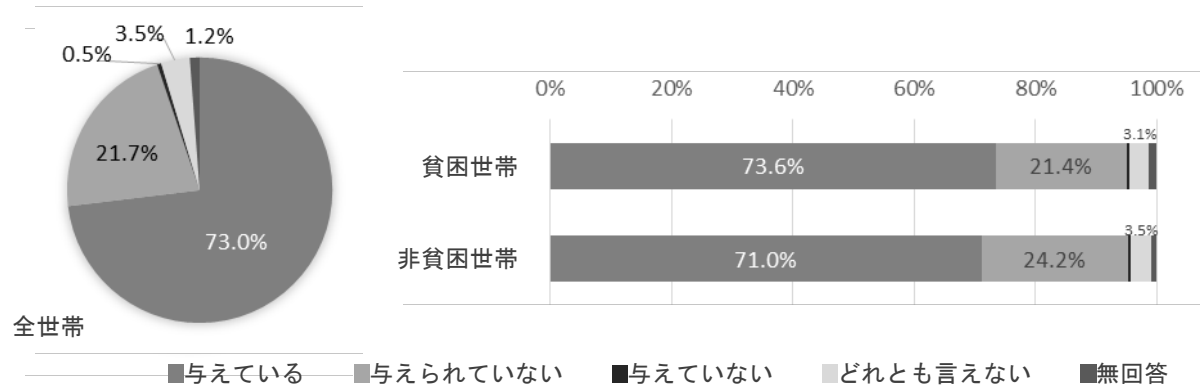


③ いっしょに食事をとること（朝食と夕食いずれも）

「与えている」世帯は、全世帯の 73.0%、貧困世帯の 73.6%、非貧困世帯の 71.0% となっており、いずれも 70% 以上であるが、非貧困世帯の割合が若干少なくなっている。

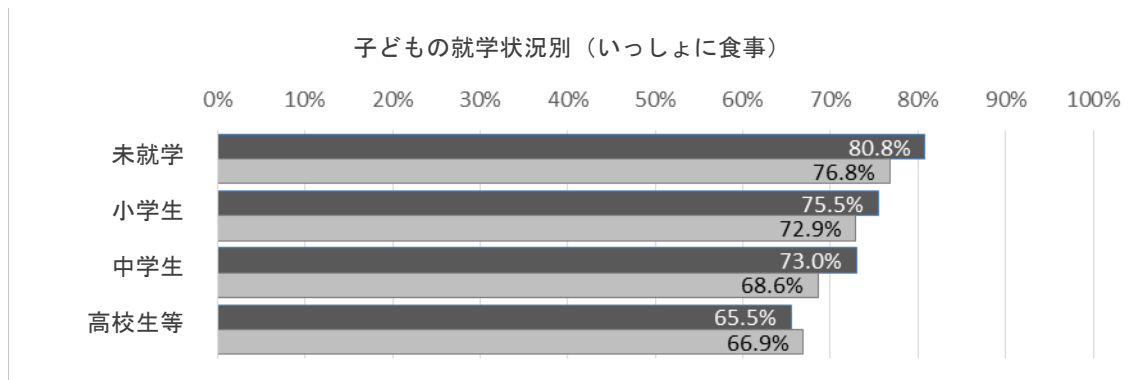
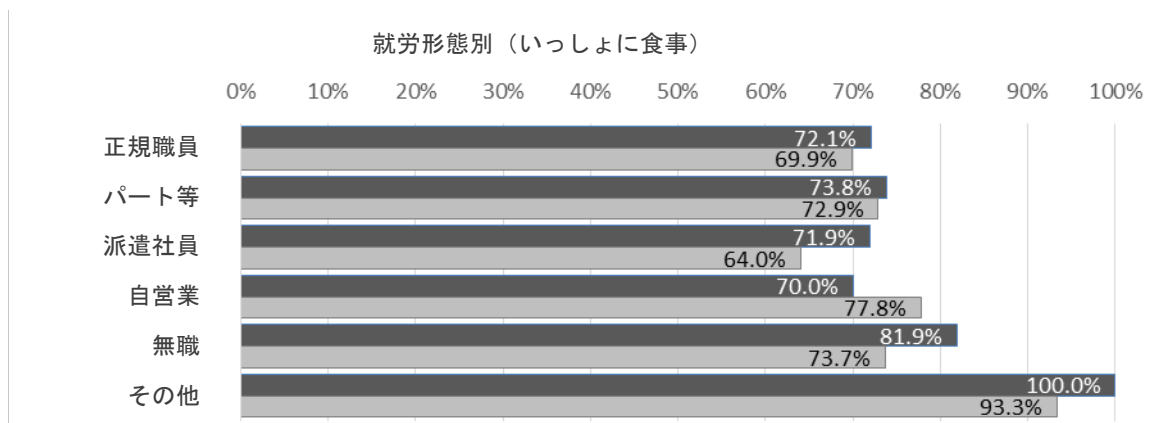
就労形態別では、非貧困世帯の「派遣社員世帯」が 64.0% と少なくなっている。

子どもの就学状況別では、貧困世帯の「未就学児がいる世帯」が 80.8% と多く、子どもの年齢が上がるにつれて下降する傾向にあり、貧困世帯の「高校生等がいる世帯」は 65.5% と少なくなっている。



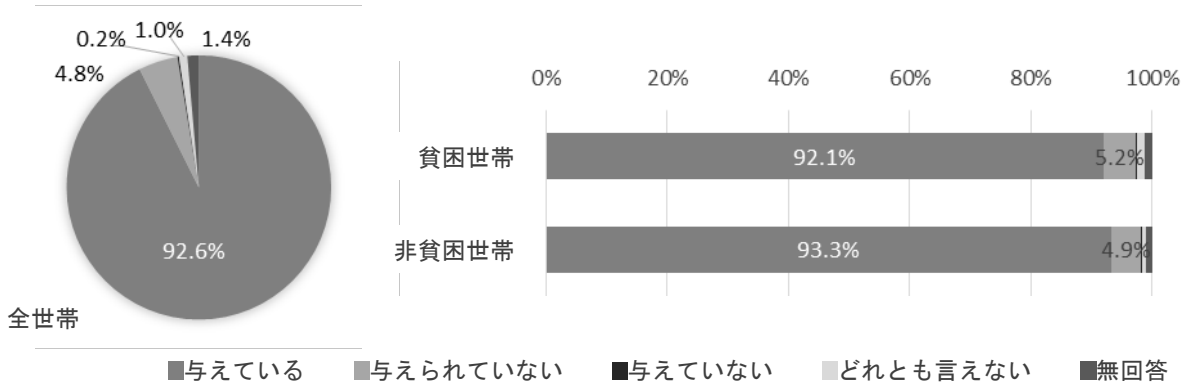
「与えている」の内訳

■ 貧困世帯 ■ 非貧困世帯

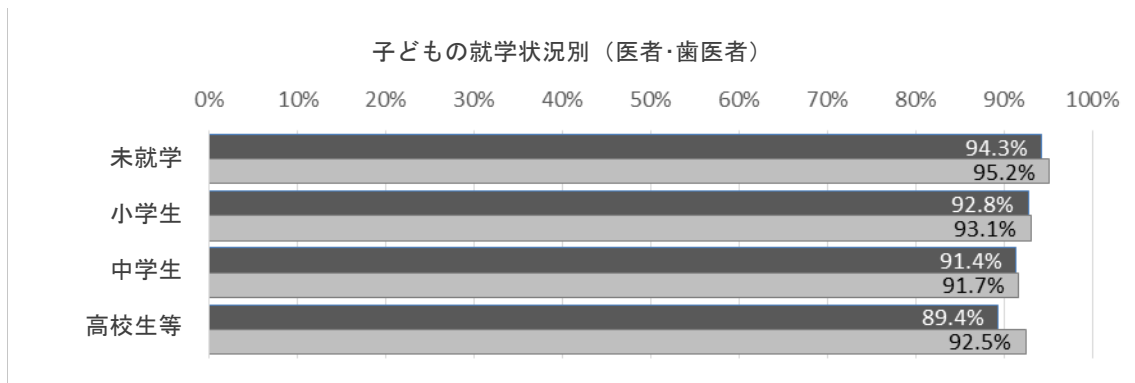
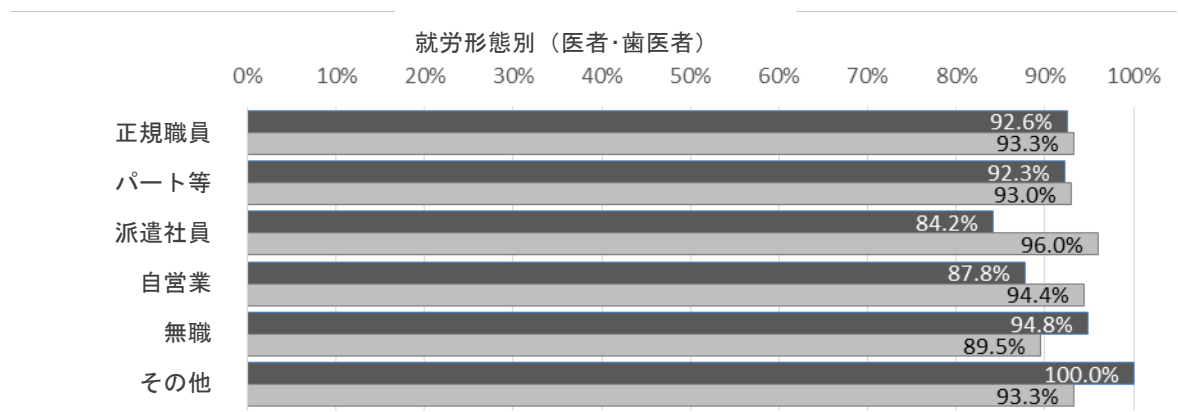


④ 医者・歯医者に行くこと（具合が悪い時に）

「与えている」世帯は、全世帯の 92.6%、貧困世帯の 92.1%、非貧困世帯の 93.3% となっており、いずれも 90% 以上である。
 就労形態別では、貧困世帯の「派遣社員世帯」及び「自営業世帯」、非貧困世帯の「無職世帯」が 90% 未満になっている。
 子どもの就学状況別では、非貧困世帯の「未就学児がいる世帯」が 95.2% と多く、子どもの年齢が上がるにつれて下降する傾向にあり、貧困世帯の「高校生等がいる世帯」は 89.4% と若干少なくなっている。

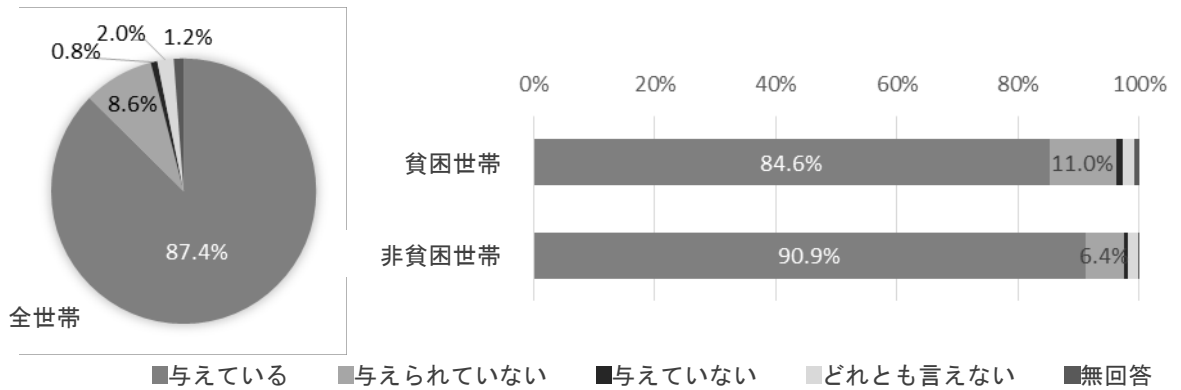


「与えている」の内訳



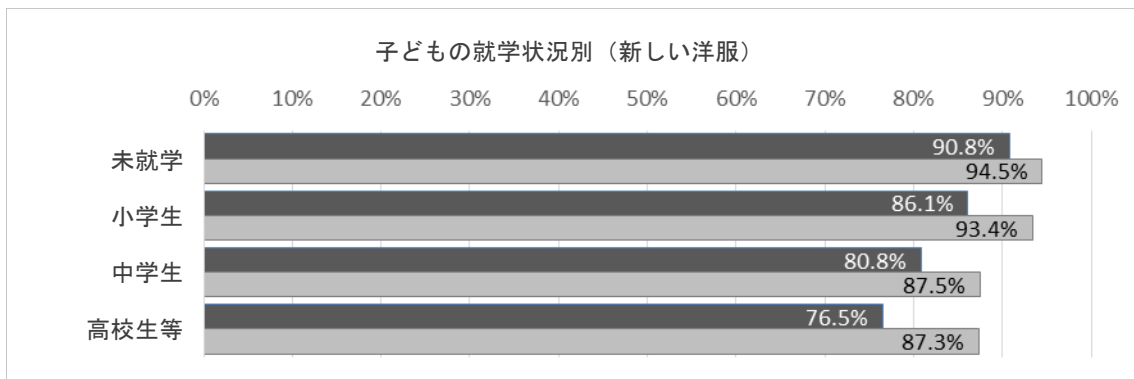
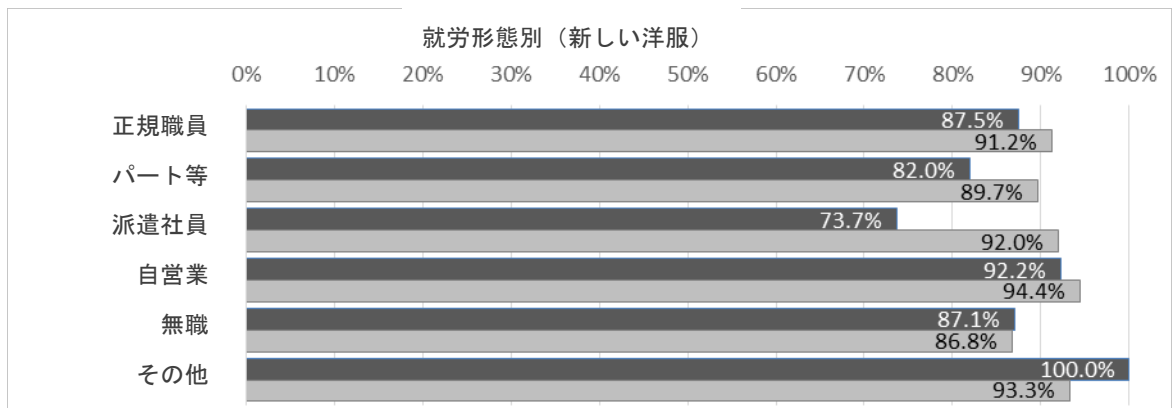
⑤ 新しい洋服（少なくとも年1回は買う）

「与えている」世帯は、全世帯の 87.4%、貧困世帯の 84.6%、非貧困世帯の 90.9% となっており、貧困世帯と非貧困世帯で、6.3 ポイントの差がある。
 就労形態別では、貧困世帯の「派遣社員世帯」が 73.7%であり、他と比べて少なくなっている。
 子どもの就学状況別では、いずれも貧困世帯が非貧困世帯より少なくなっている。「高校生等がいる世帯」の貧困・非貧困の差が最も大きく、10.8 ポイントとなっている。



「与えている」の内訳

■ 貧困世帯 ■ 非貧困世帯

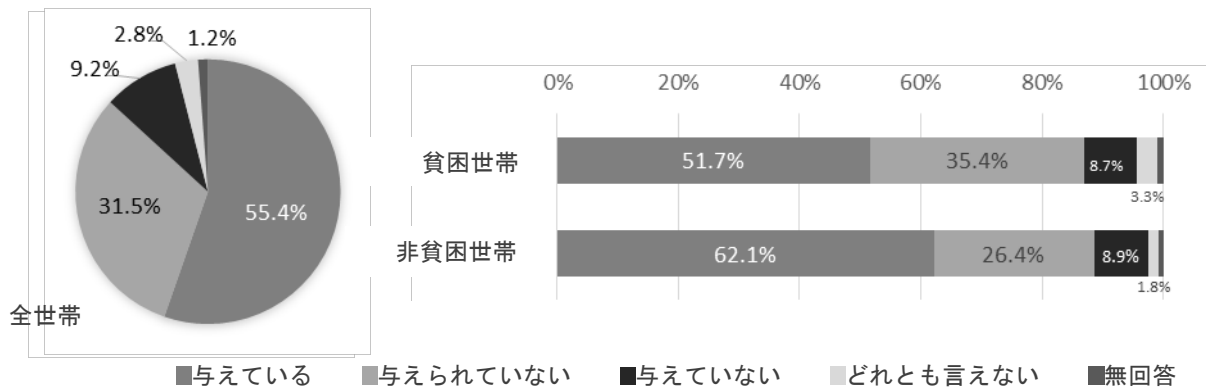


⑥ 子ども部屋

「与えている」世帯は、全世帯の 55.4%、貧困世帯の 51.7%、非貧困世帯の 62.1% となっており、貧困世帯と非貧困世帯で 10.4 ポイントの差がある。

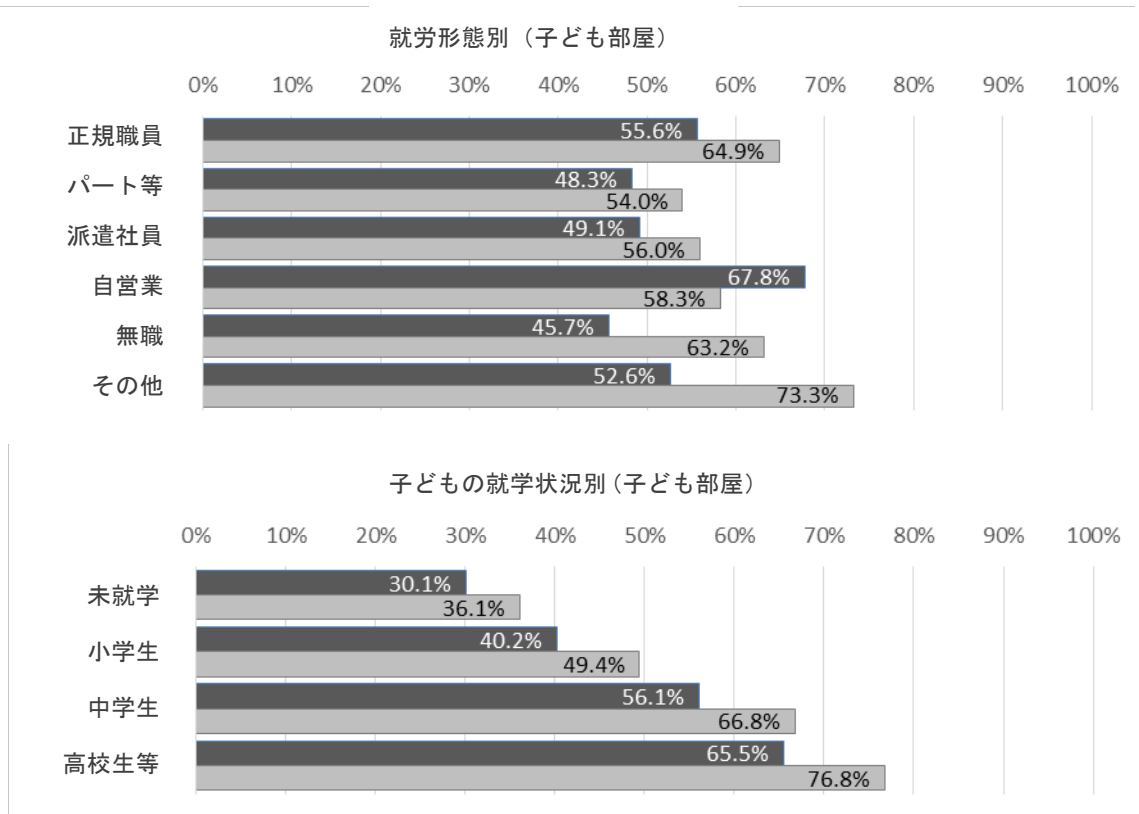
就労形態別では、貧困世帯の「無職世帯」が 45.7% であり、他と比べて少なくなっている。

子どもの就学状況別では、いずれも貧困世帯が非貧困世帯より少なく、特に「未就学児がいる世帯」が 30.1% と少ない。子どもの年齢が上がるにつれて上昇する傾向にある。「高校生等がいる世帯」の貧困・非貧困の差が最も大きく、11.3 ポイントとなっている。



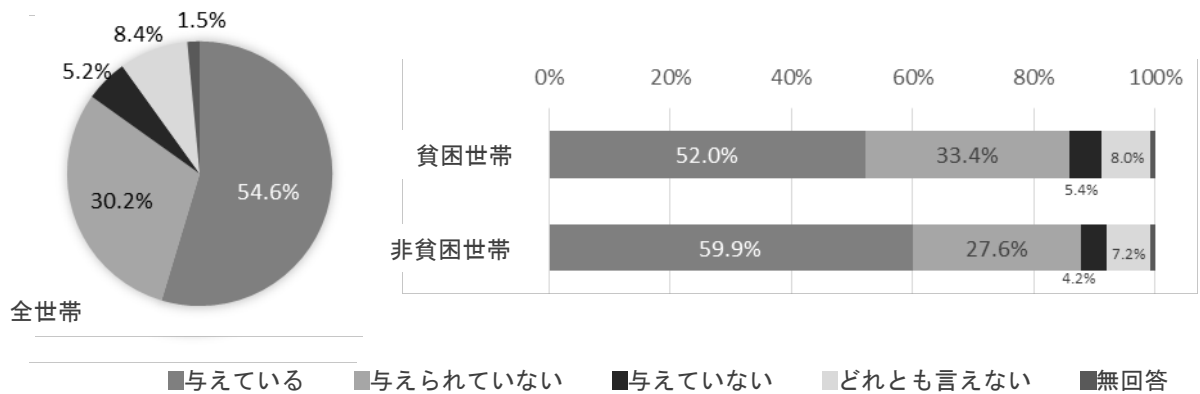
「与えている」の内訳

■ 貧困世帯 ■ 非貧困世帯

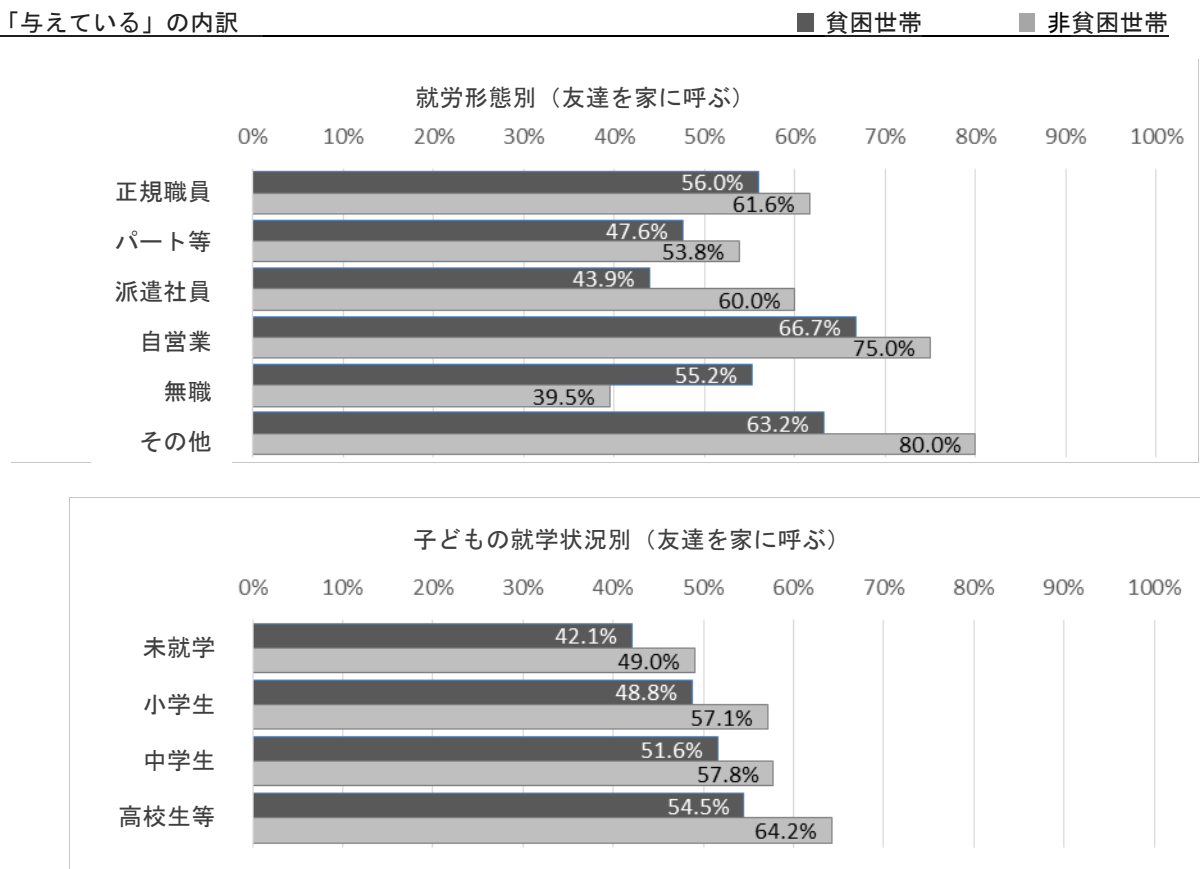


⑦ 友達を家に呼ぶこと

「与えている」世帯は、全世帯の 54.6%、貧困世帯の 52.0%、非貧困世帯の 59.9% となっており、「⑥子ども部屋」の集計結果と同様の傾向がみられる。
 就労形態別では、非貧困世帯の「無職世帯」が 39.5% であり、他と比べて少なくなっている。
 子どもの就学状況別では、いずれも貧困世帯が非貧困世帯と比べて少なく、特に「未就学児がいる世帯」が 42.1% と少ない。子どもの年齢が上がるにつれて上昇する傾向にある。「高校生等がいる世帯」の貧困・非貧困の差が最も大きく、9.7 ポイントとなっている。



「与えている」の内訳

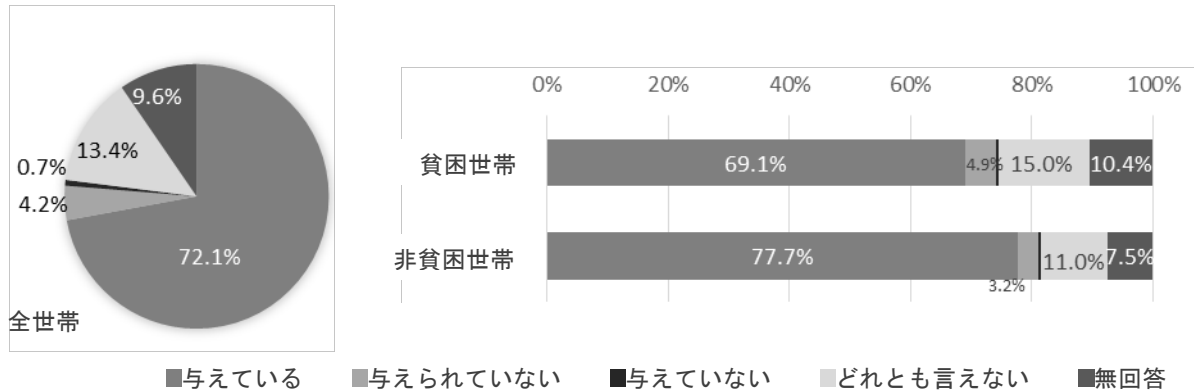


⑧ 高校までの教育

「与えている」世帯は、全世帯の72.1%、貧困世帯の69.1%、非貧困世帯の77.7%となっている。「高校生等がいる世帯」に限ってみると、「与えている」世帯は貧困世帯の93.1%、非貧困世帯の96.0%となっており、2.9ポイントの差がある。

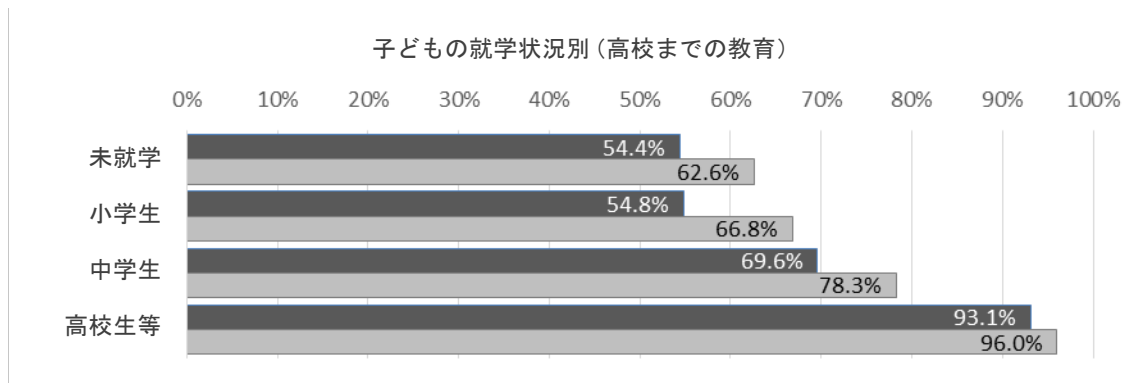
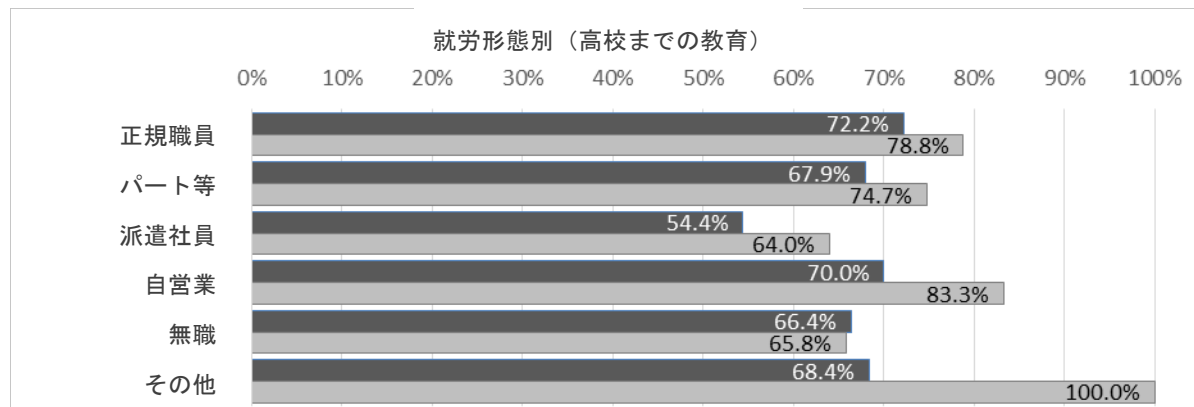
就労形態別では、貧困世帯の「派遣社員世帯」が54.4%であり、他と比べて少なくなっている。

子どもの就学状況別では、いずれも貧困世帯が非貧困世帯と比べて低く、「未就学児がいる世帯」が54.4%と最も少なくなっている。子どもの年齢が上がるにつれて上昇する傾向にあり、非貧困世帯の「中学生がいる世帯」は78.3%となっている。



「与えている」の内訳

■ 貧困世帯 ■ 非貧困世帯

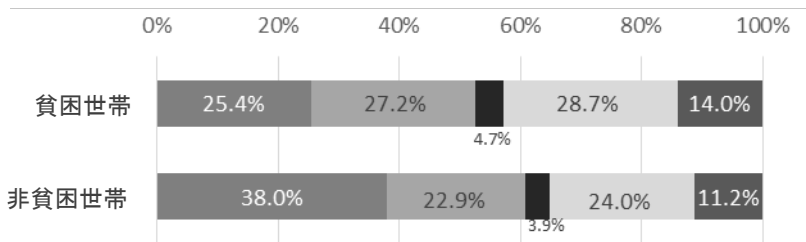
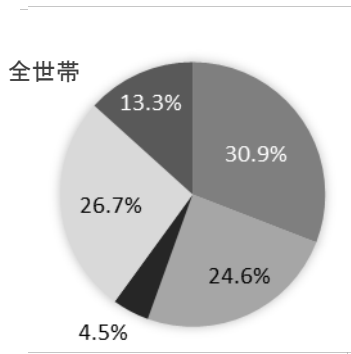


⑨ 短大・大学までの教育

「与えている」世帯は、全世帯の 30.9%、貧困世帯の 25.4%、非貧困世帯の 38.0% となっている。

就労形態別では、貧困世帯の「派遣社員世帯」が 14.0% であり、他と比べて少なくなっている。

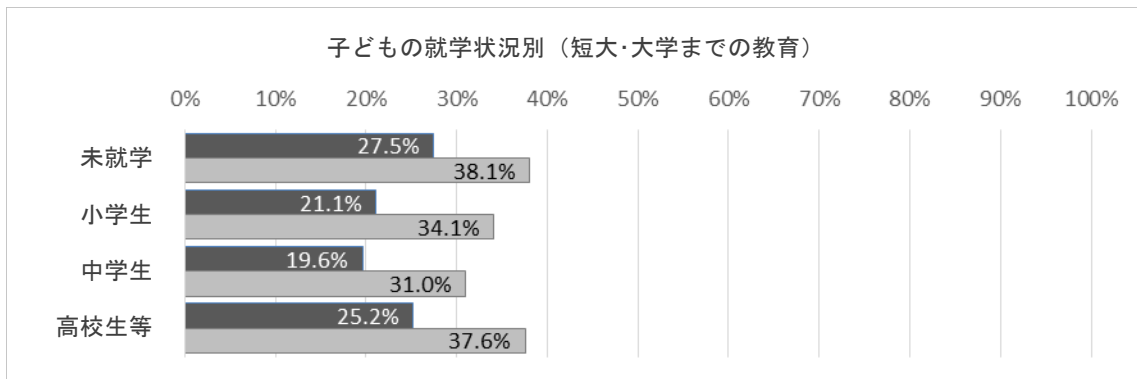
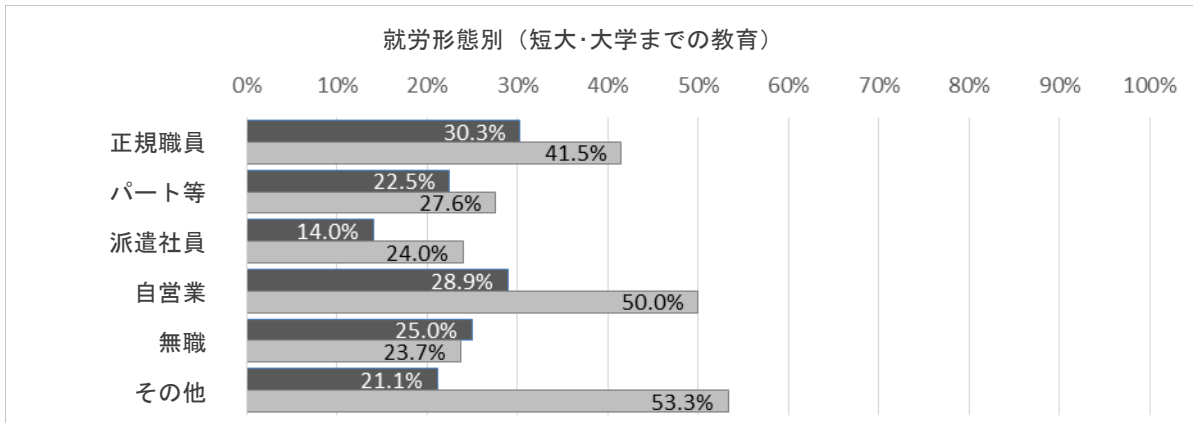
子どもの就学状況別では、いずれも貧困世帯が非貧困世帯よりも少なく、「中学生がいる世帯」が 19.6% と最も少なくなっている。非貧困世帯の「未就学児がいる世帯」が最も多く、38.1% となっている。



■与えている ■与えられていない ■与えていない ■どれとも言えない ■無回答

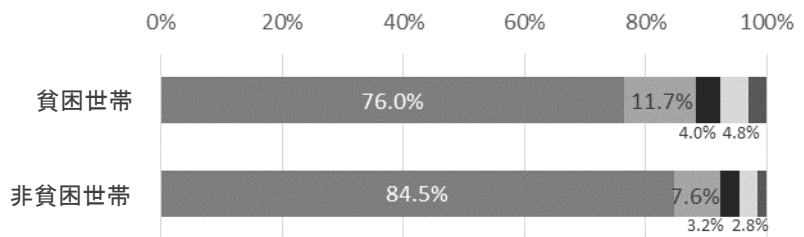
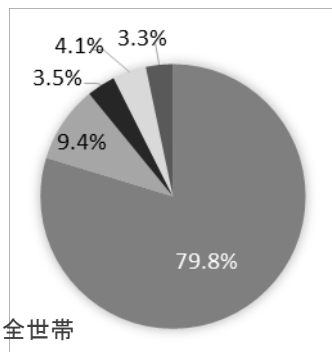
「与えている」の内訳

■ 貧困世帯 ■ 非貧困世帯



⑩ おもちゃやボールなどの遊び道具

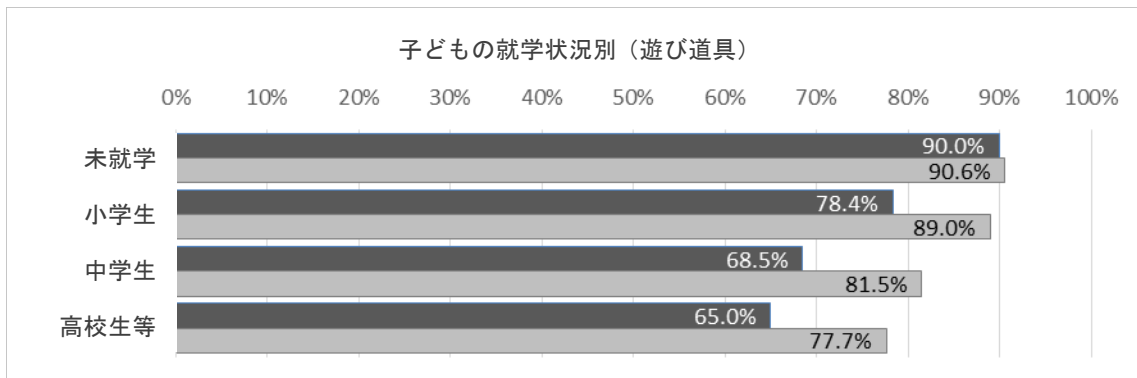
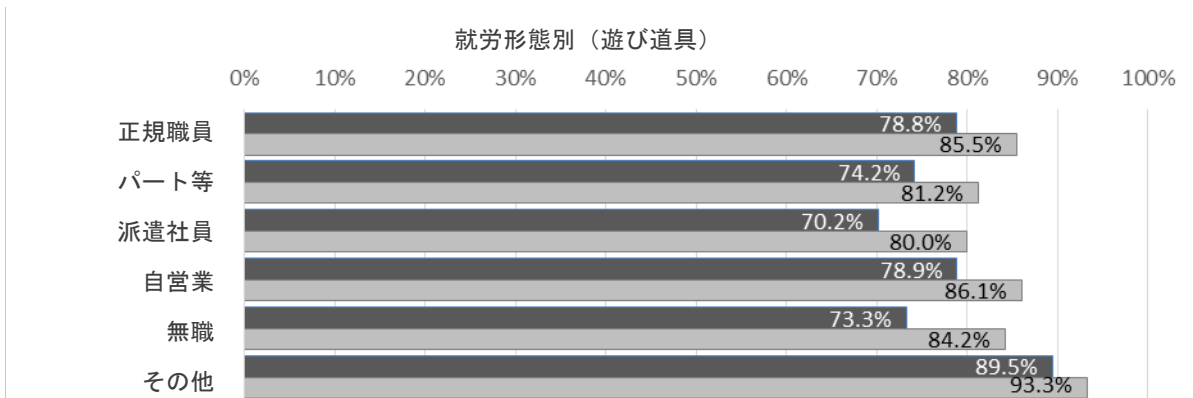
「与えている」世帯は、全世帯の 79.8%、貧困世帯の 76.0%、非貧困世帯の 84.5% となっており、貧困世帯と非貧困世帯で、8.5 ポイントの差がある。
 就労形態別では、貧困世帯の「派遣社員世帯」が 70.2% であり、最も少なくなっている。
 子どもの就学状況別では、いずれも貧困世帯が非貧困世帯に比べて少なくなっている。非貧困世帯の「未就学児がいる世帯」が 90.6% と最も多く、子どもの年齢が上がるにつれて下降する傾向にある。「中学生がいる世帯」の貧困・非貧困の差が最も大きく、13.0 ポイントとなっている。



■与えている ■与えられていない ■与えていない ■どれとも言えない ■無回答

「与えている」の内訳

■ 貧困世帯 ■ 非貧困世帯

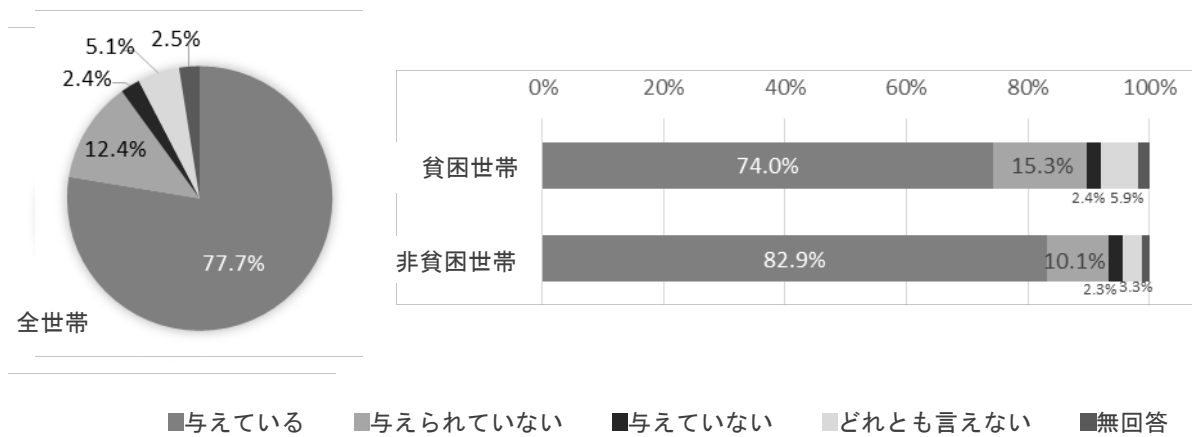


⑪ 年齢にあった絵本や本

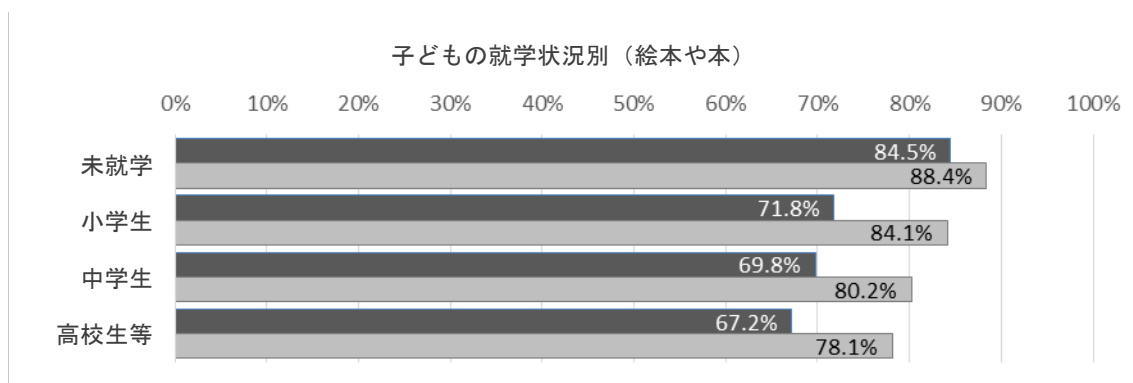
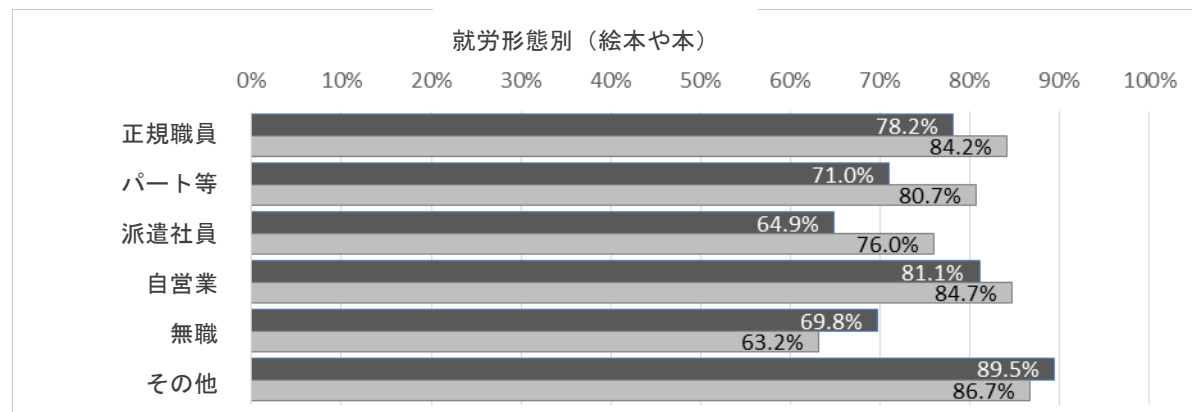
「与えている」世帯は、全世帯の 77.7%、貧困世帯の 74.0%、非貧困世帯の 82.9% となっており、「⑩おもちゃやボールなどの遊び道具」の集計結果と同様の傾向がみられる。

就労形態別では、非貧困世帯の「無職世帯」が 63.2% であり、他と比べて少なくなっている。

子どもの就学状況別では、いずれも貧困世帯が非貧困世帯と比べて少なくなっている。非貧困世帯の「未就学児がいる世帯」が 88.4% と最も多く、子どもの年齢が上がるにつれて下降する傾向にある。「小学生がいる世帯」の貧困・非貧困の差が最も大きく、12.3 ポイントとなっている。



「与えている」の内訳

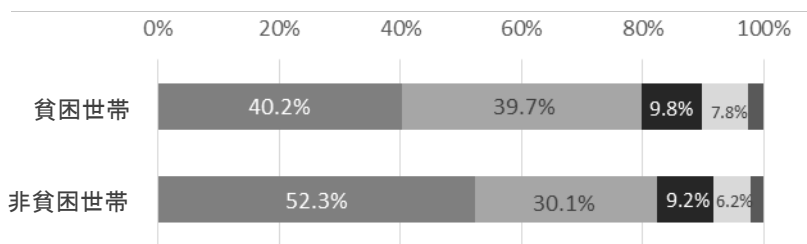
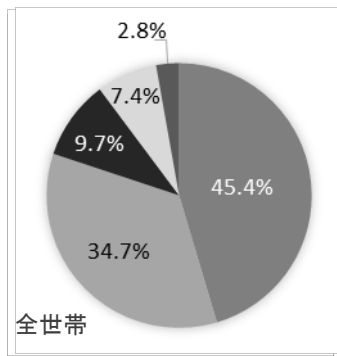


⑫ 習い事（スポーツ、ピアノ、英会話など）

「与えている」世帯は、全世帯の 45.4%、貧困世帯の 40.2%、非貧困世帯の 52.3% となっており、貧困世帯と非貧困世帯で、12.1 ポイントの差がある。また、「与えられていない」世帯は、全世帯の 34.7%、貧困世帯の 39.7%、非貧困世帯の 30.1% となっている。

就労形態別では、非貧困世帯の「自営業世帯」が 56.9% と最も多く、「無職世帯」の約 2 倍となっている。

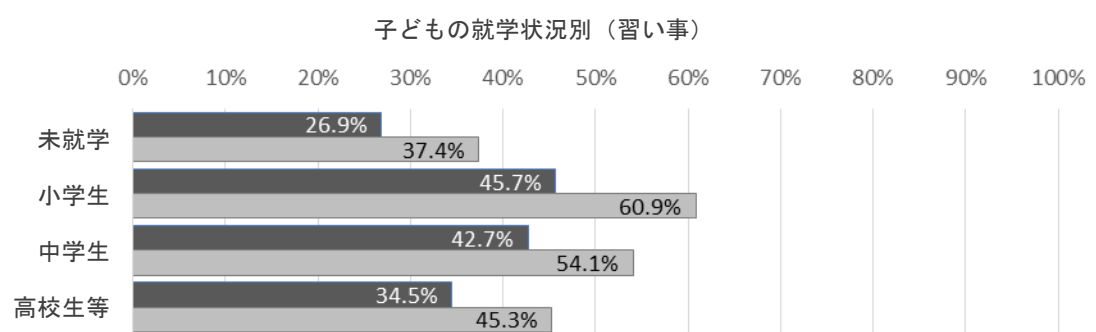
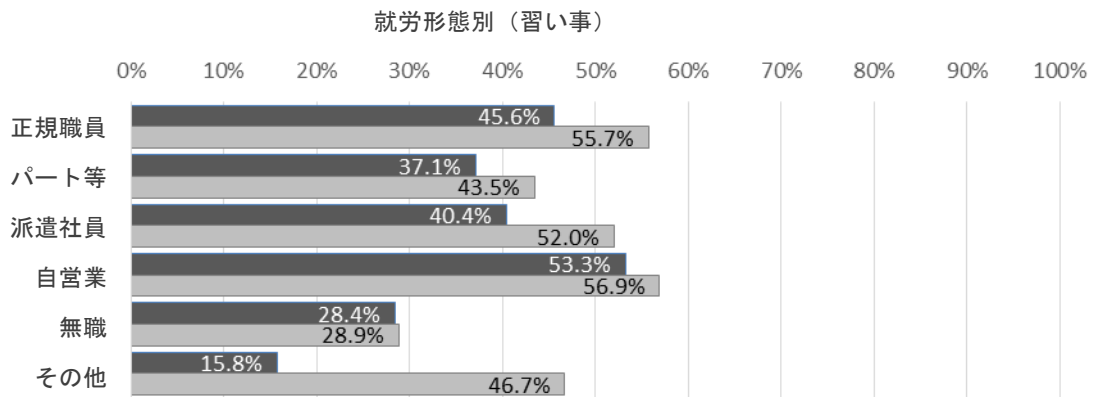
子どもの就学状況別では、いずれも貧困世帯が非貧困世帯に比べて少ない。非貧困世帯の「小学生がいる世帯」が 60.9% と最も多く、貧困世帯との貧困・非貧困の差も最大の 15.2 ポイントとなっている。



■与えている ■与えられていない ■与えていない ■どれとも言えない ■無回答

「与えている」の内訳

■ 貧困世帯 ■ 非貧困世帯

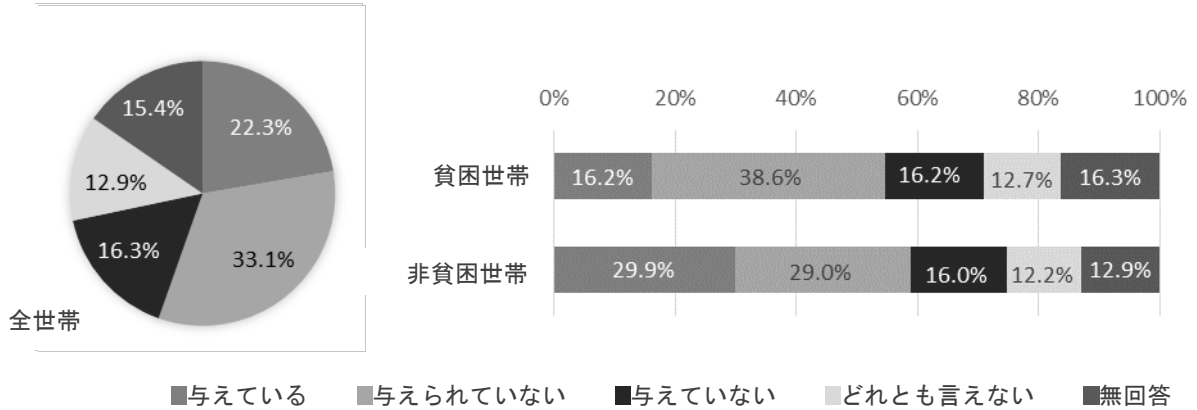


⑬ 塾（中学生以上の子どもに）

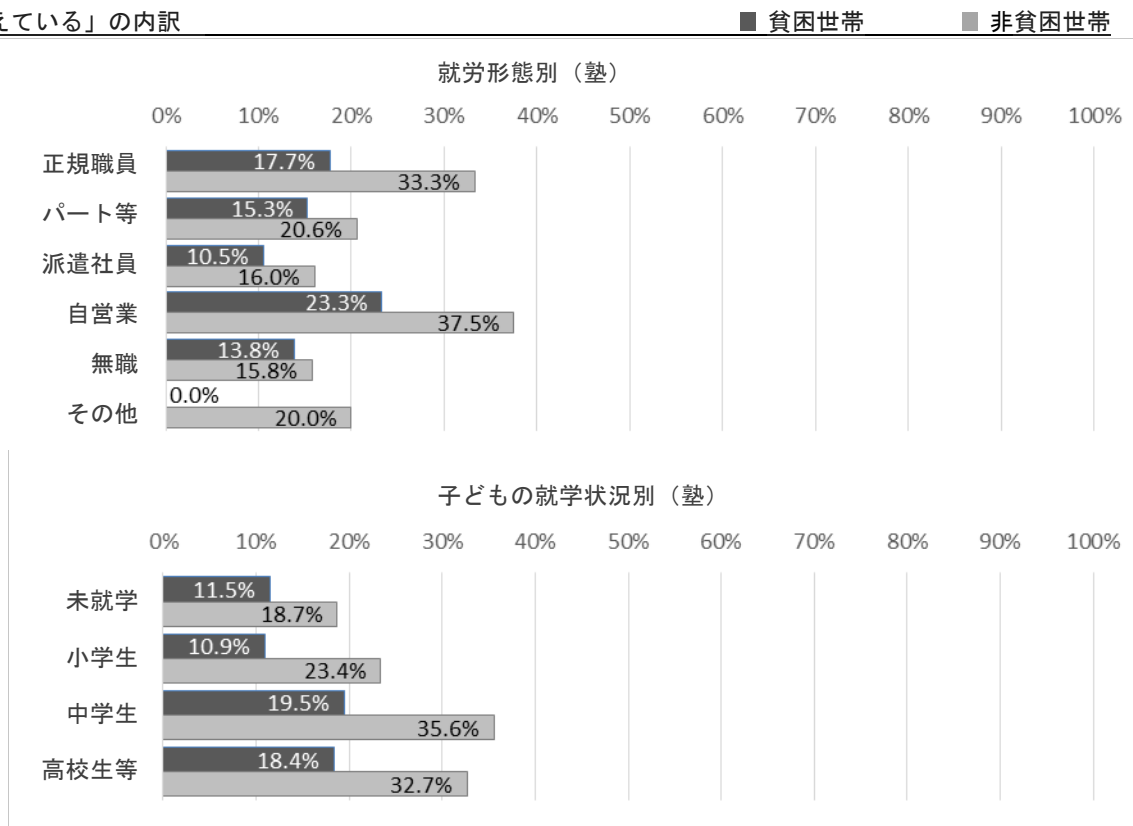
「与えている」世帯は、全世帯の 22.3%、貧困世帯の 16.2%、非貧困世帯の 29.9% となっており、貧困世帯と非貧困世帯で、13.7 ポイントの差がある。また、「与えられていない」世帯は、全世帯の 33.1%、貧困世帯の 38.6%、非貧困世帯の 29.0% となっている。

就労形態別では、非貧困世帯の「自営業世帯」が 37.5% と最も多く、貧困世帯の「派遣社員世帯」が 10.5% であり、27.0 ポイントの差がある。

子どもの就学状況別では、いずれも貧困世帯が非貧困世帯に比べて少ない。非貧困世帯の「中学生がいる世帯」が 35.6% と最も多く、貧困世帯との貧困・非貧困の差も最大の 16.1 ポイントとなっている。



「与えている」の内訳

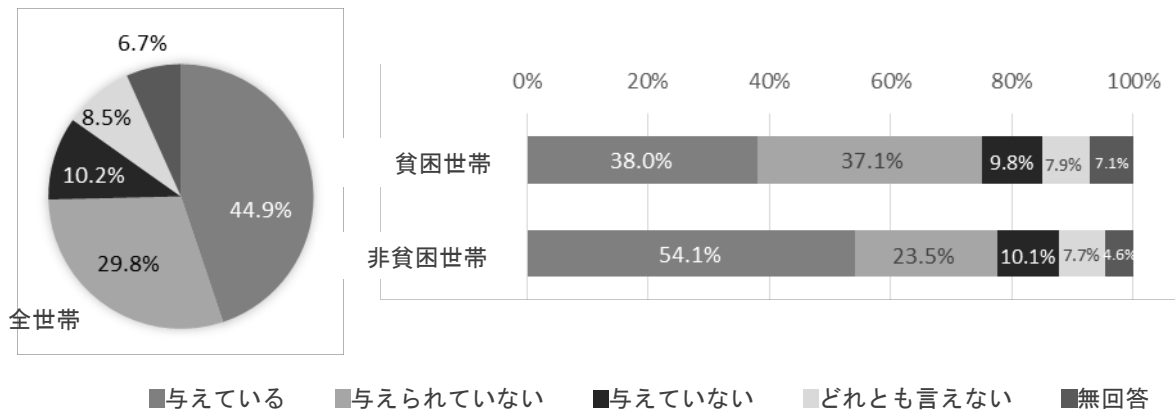


⑭ 適当な額のおこづかい（小学生以上の子どもに）

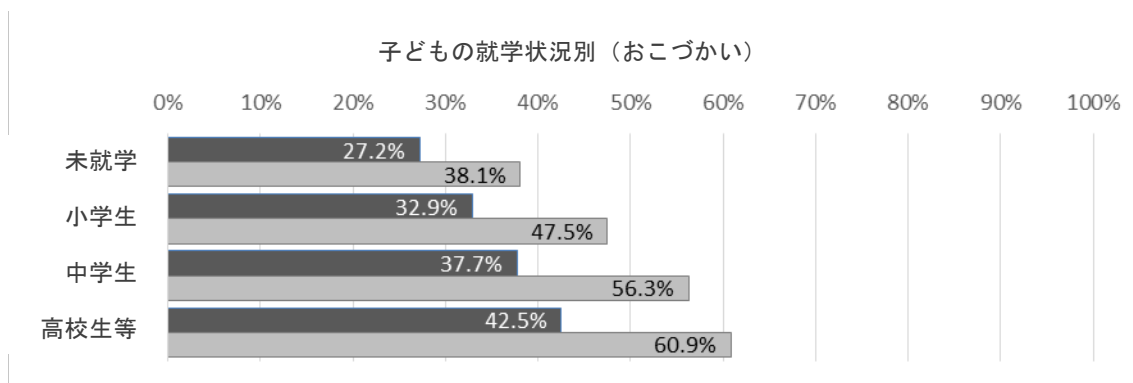
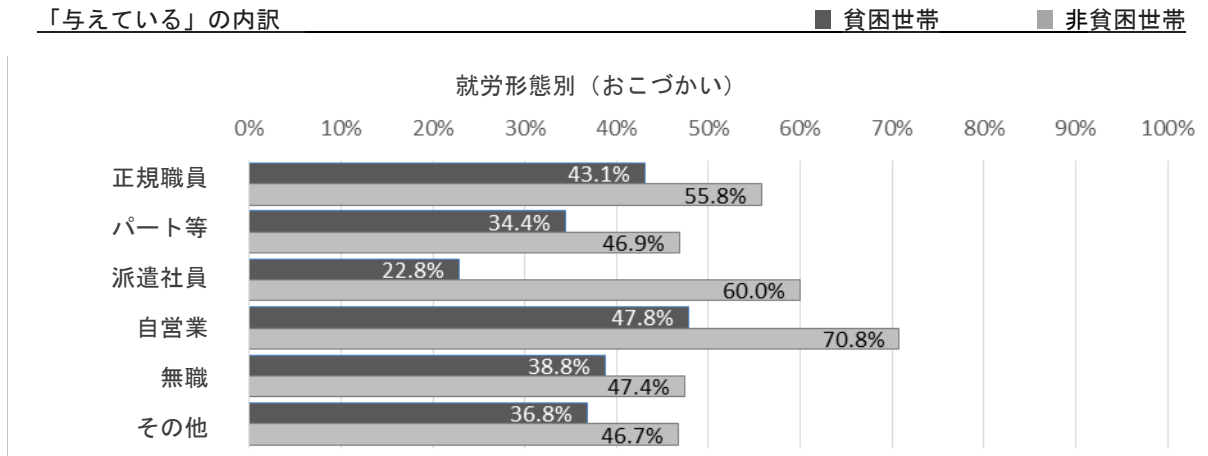
「与えている」世帯は、全世帯の 44.9%、貧困世帯の 38.0%、非貧困世帯の 54.1% となっており、貧困世帯と非貧困世帯で、16.1 ポイントの差がある。また、「与えられていない」世帯は、全世帯の 29.8%、貧困世帯の 37.1%、非貧困世帯の 23.5% となっている。

就労形態別では、非貧困世帯の「自営業世帯」が 70.8% と最も多く、貧困世帯の「派遣社員世帯」が 22.8% であり、48.0 ポイントの差がある。

子どもの就学状況別では、いずれも貧困世帯が非貧困世帯に比べて少ない。非貧困世帯の「高校生等がいる世帯」が 60.9% と最も多い。「中学生がいる世帯」の貧困・非貧困の差が最も大きく、18.6 ポイントとなっている。



「与えている」の内訳



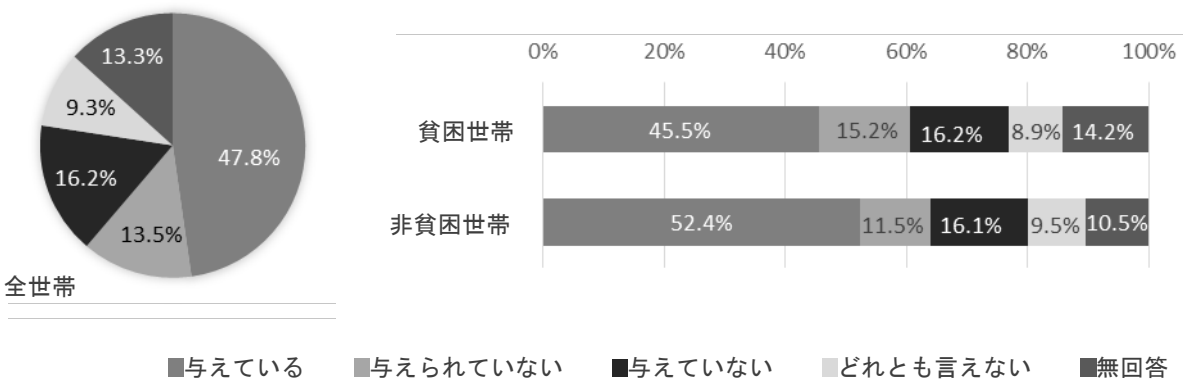
⑮ 携帯電話やスマートフォン（中学生以上の子どもに）

「与えている」世帯は、全世帯の47.8%、貧困世帯の45.5%、非貧困世帯の52.4%となっており、貧困世帯と非貧困世帯で、6.9ポイントの差がある。

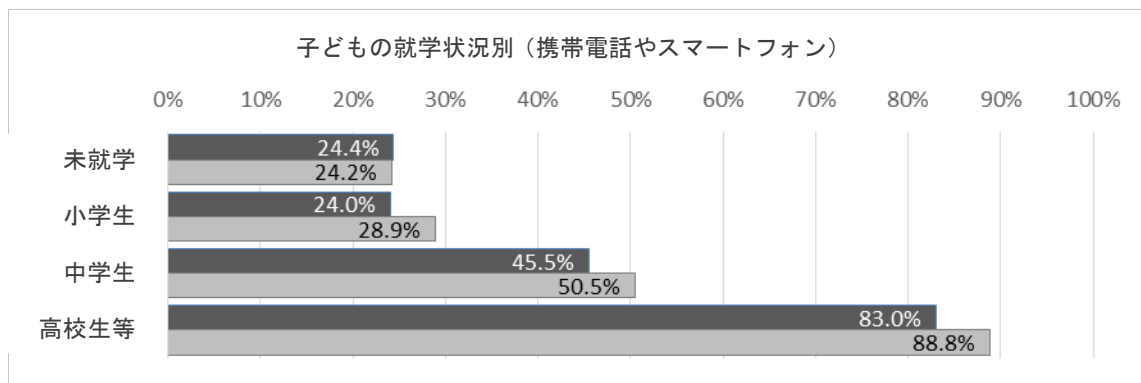
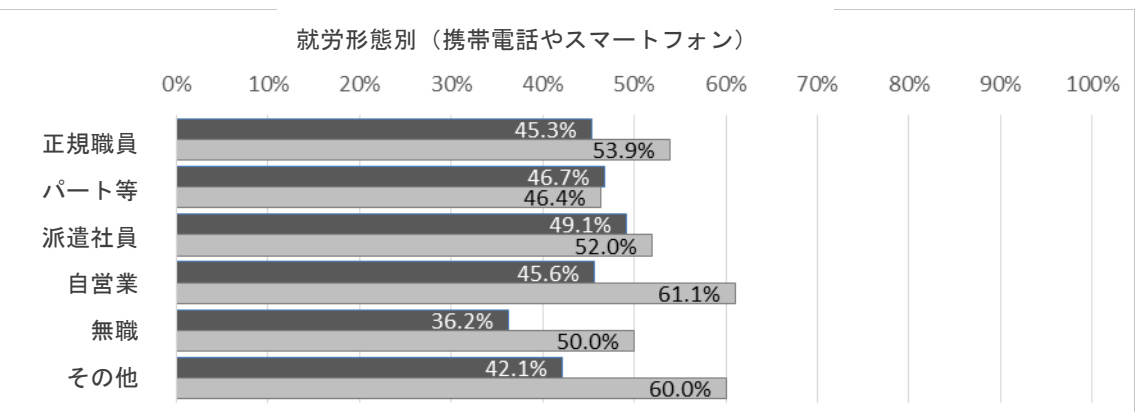
就労形態別では、非貧困世帯の「自営業世帯」が61.1%と最も多く、貧困世帯の「無職世帯」は36.2%であり、24.9ポイントの差がある。

子どもの就学状況別では、貧困世帯の「小学生がいる世帯」が24.0%と少なく、子どもの年齢が上がるにつれて上昇する傾向にある。非貧困世帯の「高校生等がいる世帯」が最も多く、88.8%となっている。

なお、「与えられていない」世帯は、「高校生等がいる世帯」では、貧困世帯・非貧困世帯ともに10%未満となっている(統計表P76参照)。



「与えている」の内訳

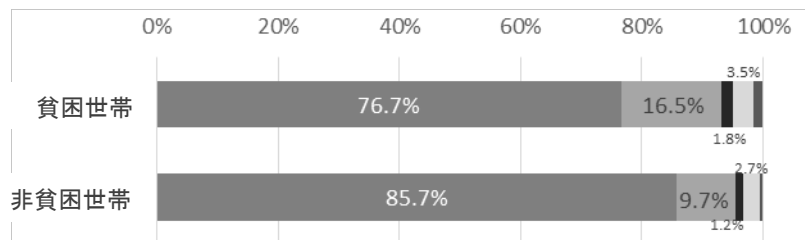
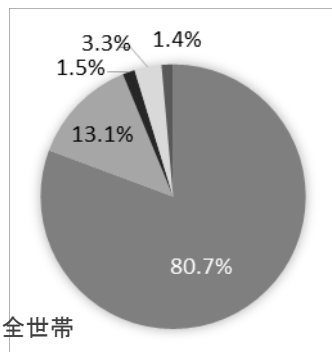


⑩ 誕生日やクリスマスのお祝・プレゼント

「与えている」世帯は、全世帯の 80.7%、貧困世帯の 76.7%、非貧困世帯の 85.7% となっており、貧困世帯と非貧困世帯で、9.0 ポイントの差がある。

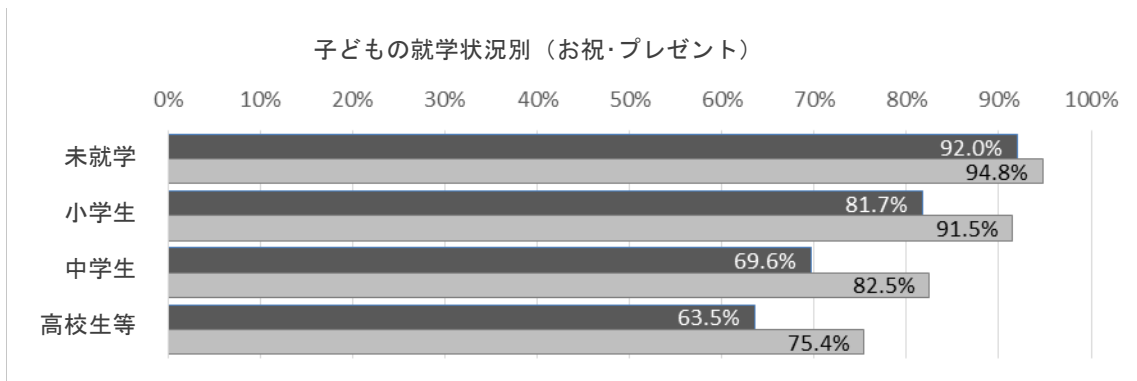
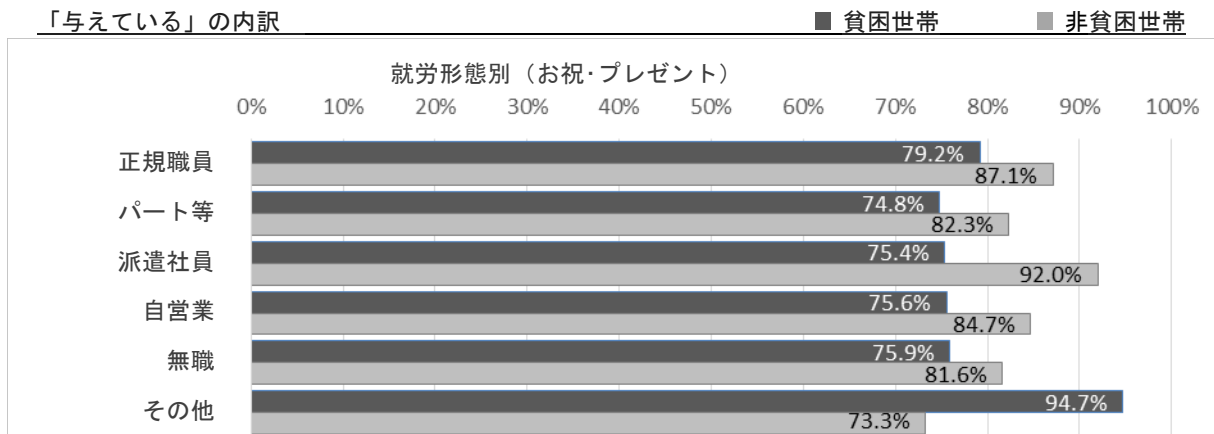
就労形態別では、貧困世帯の「パート等世帯」が 74.8% であり、他と比べて少なくなっている。

子どもの就学状況別では、いずれも貧困世帯が非貧困世帯に比べて少ない。非貧困世帯の「未就学児がいる世帯」が 94.8% と多く、子どもの年齢が上がるにつれて下降する傾向にある。「中学生がいる世帯」の貧困・非貧困の差が最も大きく、12.9 ポイントとなっている。



■与えている ■与えられていない ■与えていない ■どれとも言えない ■無回答

「与えている」の内訳

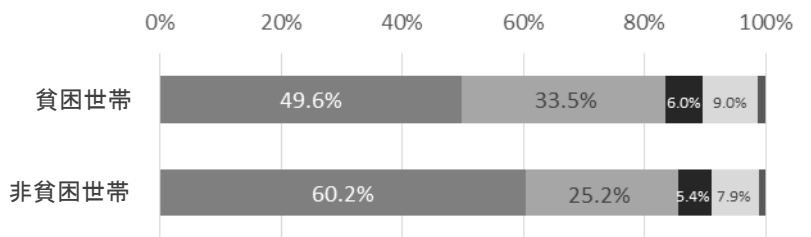
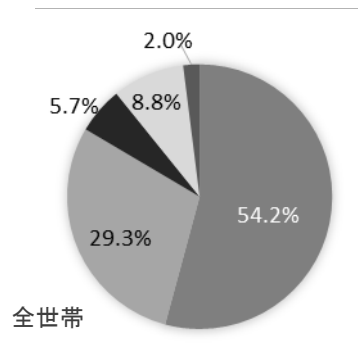


⑰ 動物園や水族館に行くこと（年に1回程度）

「与えている」世帯は、全世帯の 54.2%、貧困世帯の 49.6%、非貧困世帯の 60.2% となっており、貧困世帯と非貧困世帯で、10.6 ポイントの差がある。

就労形態別では、非貧困世帯の「正規職員世帯」が 62.6% と多く、非貧困世帯の「無職世帯」が 39.5% であり、23.1 ポイントの差がある。

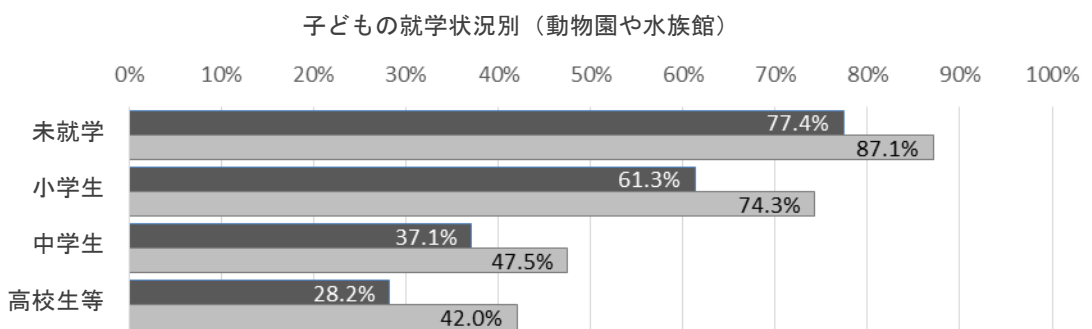
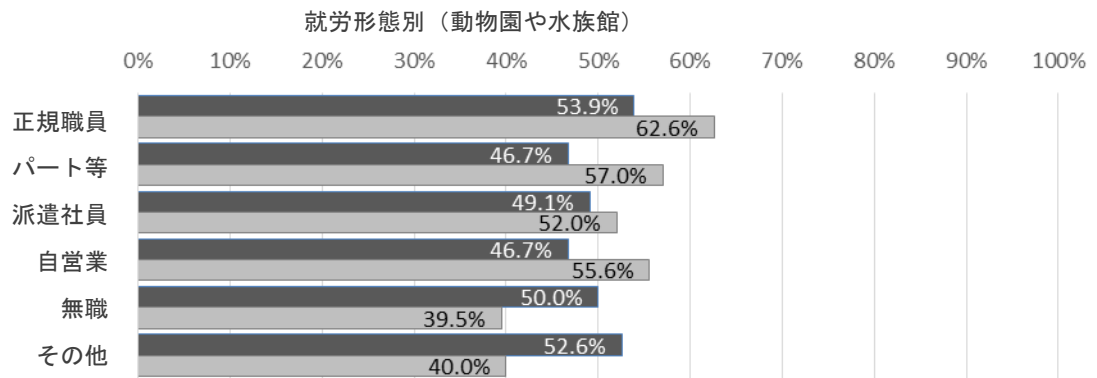
子どもの就学状況別では、いずれも貧困世帯が非貧困世帯に比べて少ない。非貧困世帯の「未就学児がいる世帯」が 87.1% と多く、子どもの年齢が上がるにつれて下降する傾向にある。「高校生等がいる世帯」の貧困・非貧困の差が最も大きく、13.8 ポイントとなっている。



■与えている ■与えられていない ■与えていない ■どちらとも言えない ■無回答

「与えている」の内訳

■ 貧困世帯 ■ 非貧困世帯

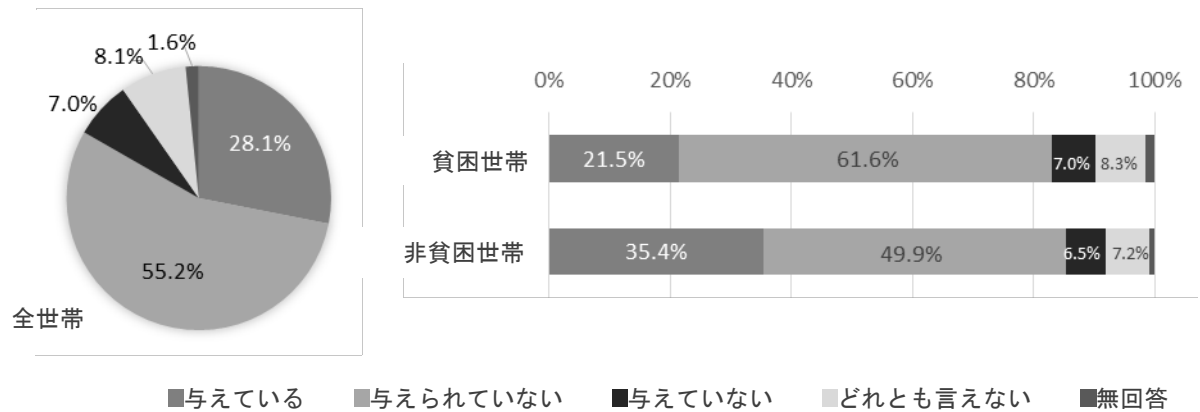


⑱ 1泊以上の家族旅行に行くこと（年に1回程度）

「与えている」世帯は、全世帯の28.1%、貧困世帯の21.5%、非貧困世帯の35.4%となっており、貧困世帯と非貧困世帯で、13.9ポイントの差がある。

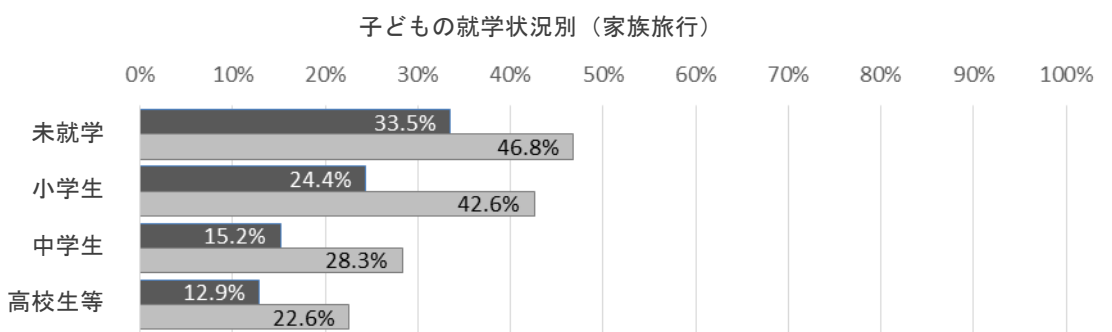
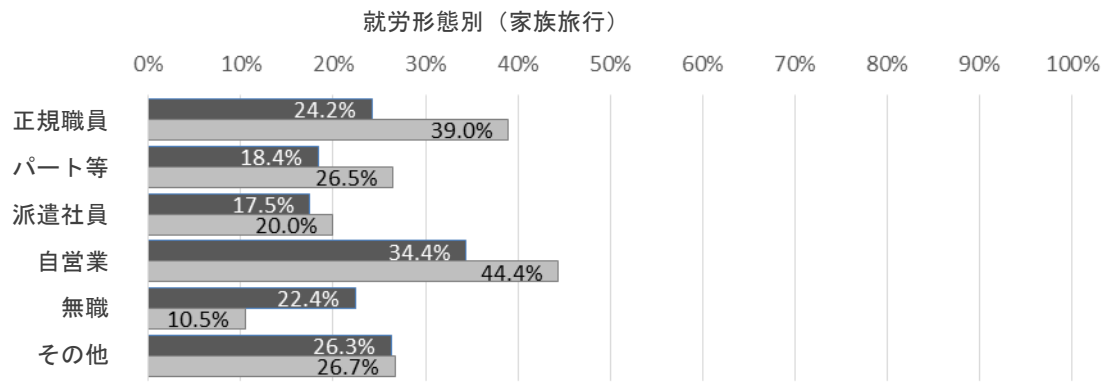
就労形態別では、非貧困世帯の「自営業世帯」が44.4%と高く、非貧困世帯の「無職世帯」が10.5%であり、33.9ポイントの差がある。

子どもの就学状況別では、いずれも貧困世帯が非貧困世帯に比べて少ない。非貧困世帯の「未就学児がいる世帯」が46.8%と多く、子どもの年齢が上がるにつれて下降する傾向にある。「小学生がいる世帯」の貧困・非貧困の差が最も大きく、18.2ポイントとなっている。



「与えている」の内訳

■ 貧困世帯 ■ 非貧困世帯

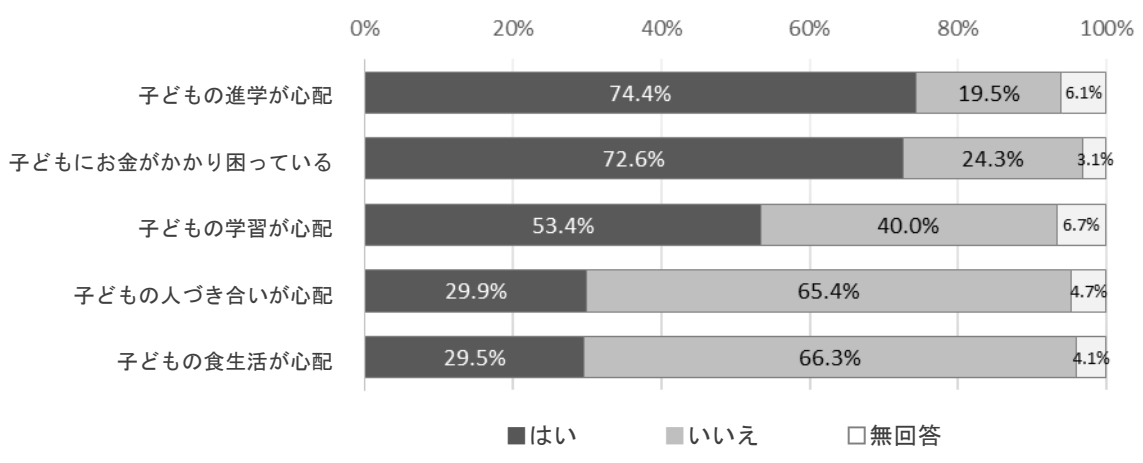


(3) 子育てに関する事項について

全世帯：n=4,323、貧困世帯：n=1,905、非貧困世帯：n=1,912
 [全世帯] 未就学：n=785、小学生：n=1,642、中学生：n=1,370、高校生等：n=1,460
 [貧困世帯] 未就学：n=349、小学生：n=763、中学生：n=626、高校生等：n=635
 [非貧困世帯] 未就学：n=310、小学生：n=693、中学生：n=590、高校生等：n=667

全世帯のうち、子どもの進学を心配している世帯が74.4%、子どもにお金がかかり困っている世帯が72.6%、子どもの学習を心配している世帯が53.4%、子どもの人づき合いを心配している世帯が29.9%、子どもの食生活を心配している世帯が29.5%となっており、子どもの学習面を心配している世帯や子どもにお金がかかることに困っている世帯が多いことがわかる。

なお、子育てに関する事項はすべて複数回答である。



① 子どもに要する経費に関する困りごと（子どもにお金がかかり困っていますか？）

「はい」と答えた世帯は、全世帯の 72.6%、「未就学児がいる世帯」の 53.8% であるが、子どもの年齢が上がるにつれて上昇し、「高校生等がいる世帯」では 85.6% となっている。なお、この傾向は貧困世帯も非貧困世帯も同様であり、非貧困世帯の割合は貧困世帯よりもそれぞれ 10 ポイント程度少なくなっている(統計表 P 100 参照)。

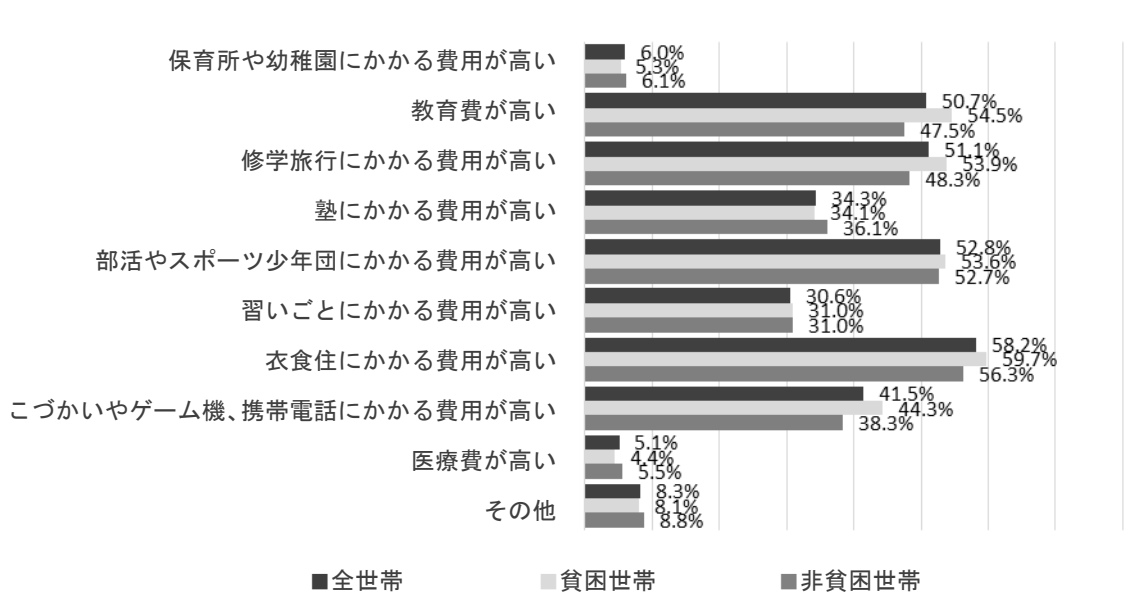
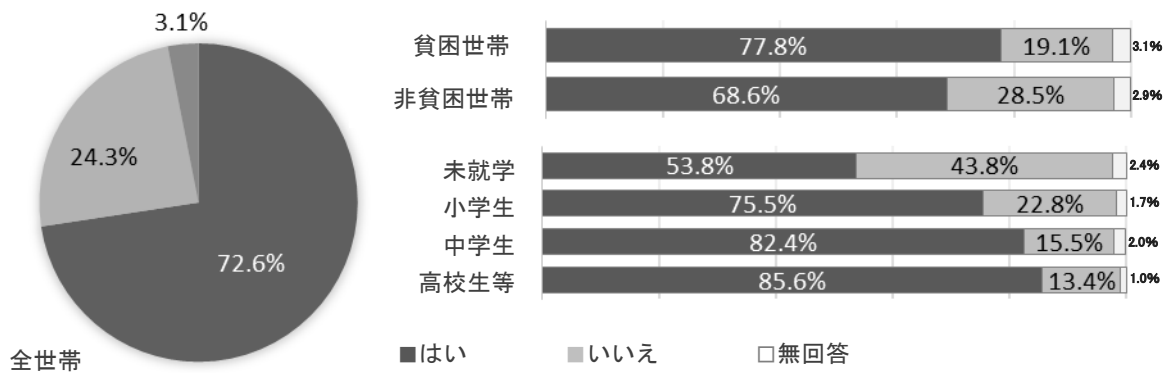
困っていることの内容の上位は、「未就学児がいる世帯」では、「衣食住」(55.2%)、「保育所や幼稚園」(34.8%)、「習いごと」(21.1%)となっている。

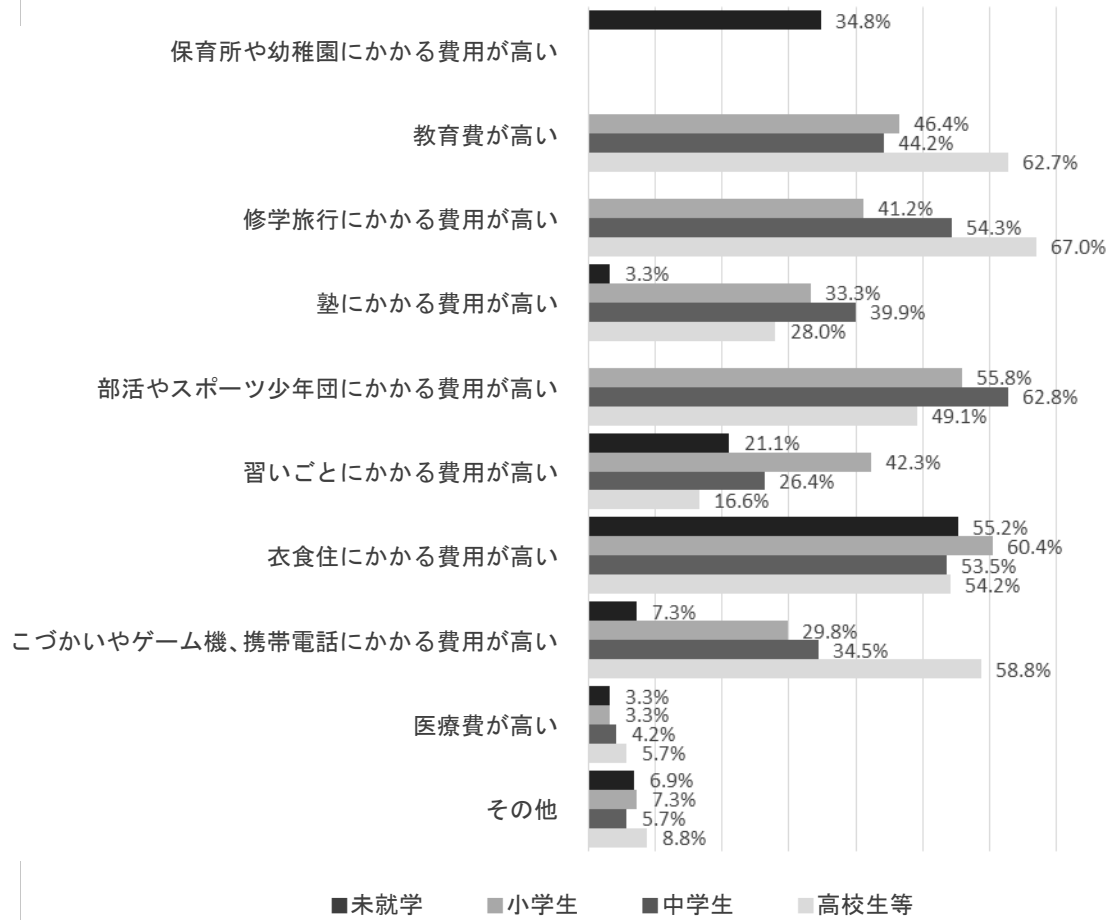
「小学生がいる世帯」では、「衣食住」(60.4%)、「部活やスポーツ少年団」(55.8%)、「教育費」(46.4%)となっている。

「中学生がいる世帯」では、「部活やスポーツ少年団」(62.8%)、「修学旅行」(54.3%)、「衣食住」(53.5%)となっている。

「高校生等がいる世帯」では、「修学旅行」(67.0%)、「教育費」(62.7%)、「こづかいやゲーム機、携帯電話」(58.8%)となっている。

子どもの年齢が上がるにつれて、「衣食住」から「学校関係の経費」、「こづかいやゲーム機、携帯電話」へと費用がかかる項目が変化している。





② 子どもの食生活に関する心配ごと（子どもの食生活が心配ですか？）

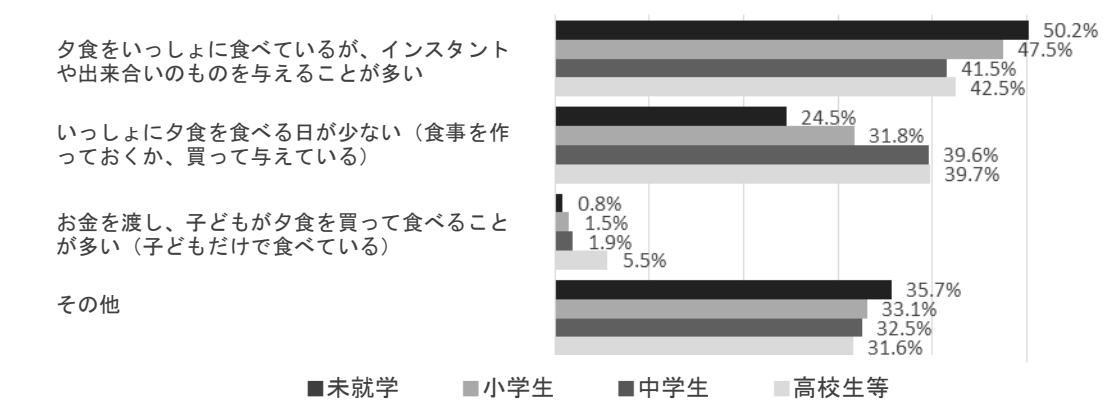
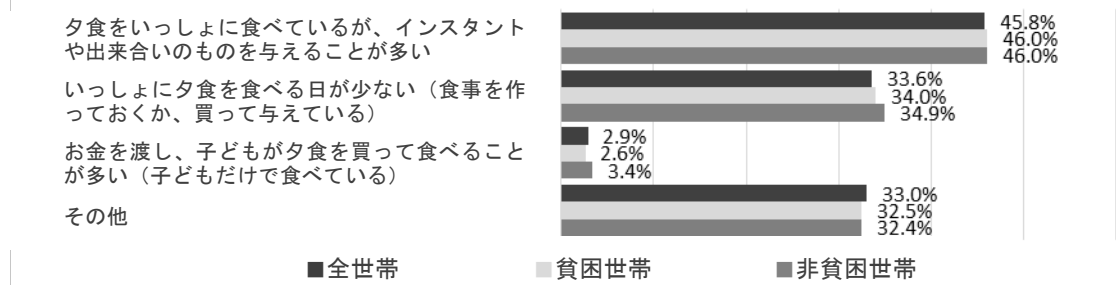
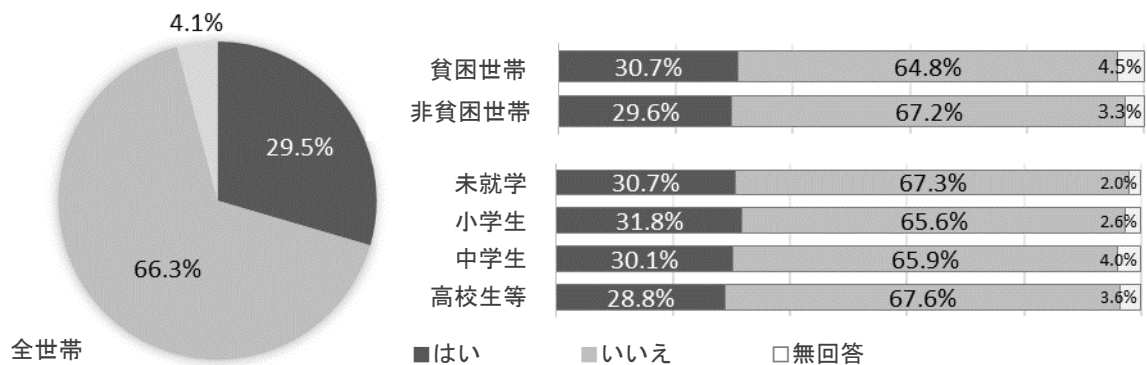
「はい」と答えた世帯は全世帯の 29.5%で、貧困世帯と非貧困世帯別の割合も同様であり、「いいえ」と答えた世帯が全世帯の 66.3%となっている。

そのうち、「夕食をいっしょに食べているが、インスタントや出来合いのものを与えることが多い」（45.8%）と答えた世帯を就学状況別に見ると、「未就学児がいる世帯」が 50.2%、「小学生がいる世帯」が 47.5%、「中学生がいる世帯」が 41.5%、「高校生等がいる世帯」が 42.5%となっている。

「いっしょに夕食を食べる日が少ない（食事を作っておくか、買って与えている）」（33.6%）と答えた世帯を子どもの就学状況別に見ると、「未就学児がいる世帯」が 24.5%、「小学生がいる世帯」が 31.8%、「中学生がいる世帯」が 39.6%、「高校生等がいる世帯」が 39.7%となっており、子どもの年齢が上がるにつれて上昇している。

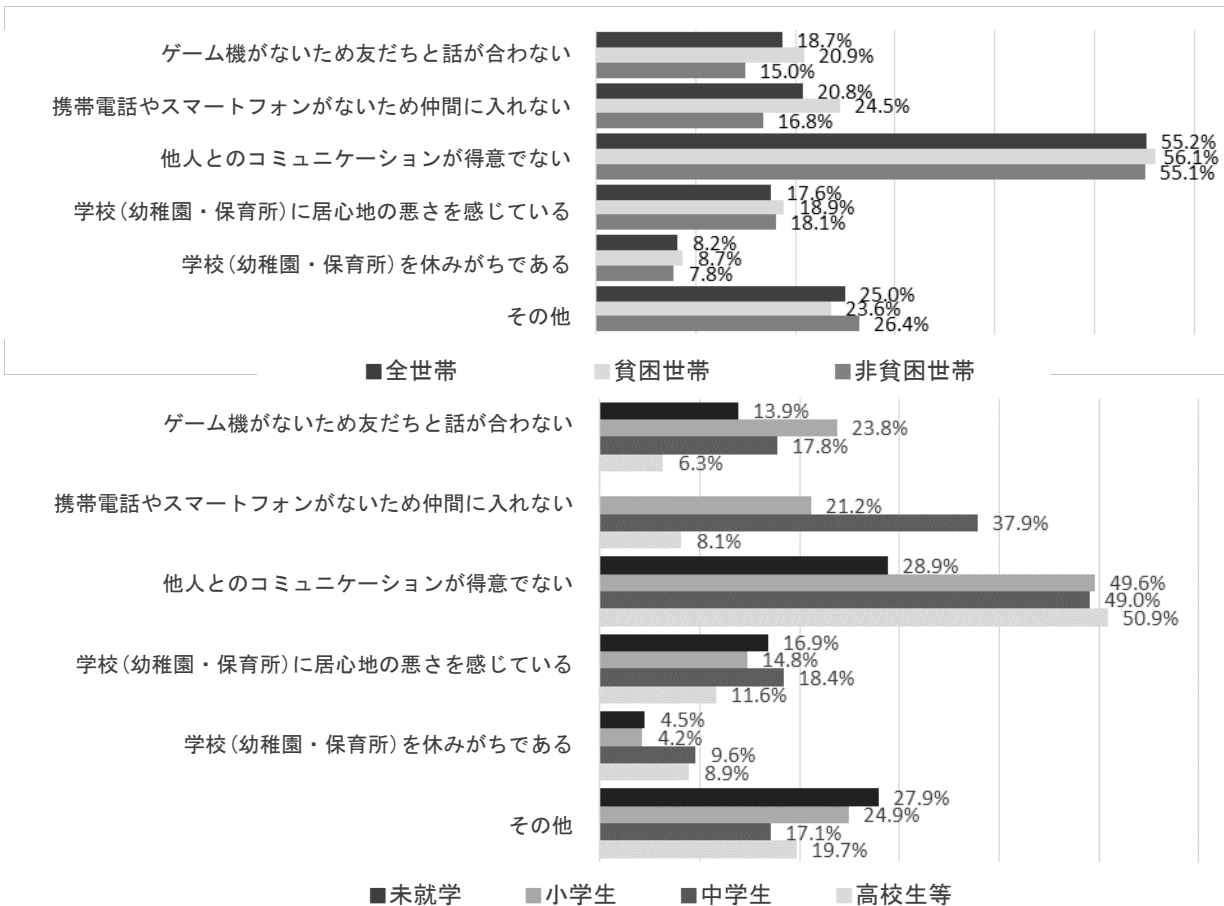
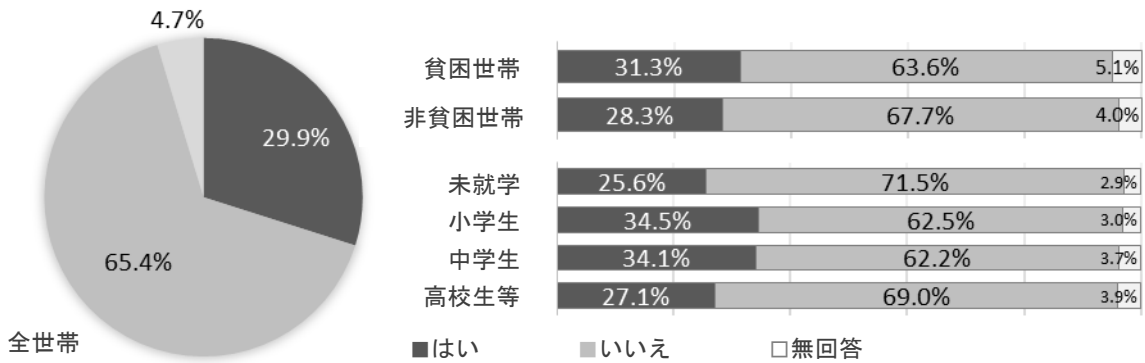
「お金を渡し、子どもが夕食を買って食べる人が多い（子どもだけで食べている）」（2.9%）と答えた世帯は少ないが、「未就学児がいる世帯」が 0.8%、「小学生がいる世帯」が 1.5%、「中学生がいる世帯」が 1.9%、「高校生等がいる世帯」5.5%となっており、これも子どもの年齢が上がるにつれて上昇している。

「その他」の心配なこととしては、「食事バランスやメニューの偏り」、「調理時間不足」、「子どもの偏食」、「子どもの少食」などがあつた。



③ 子どもの人づき合いに関する心配ごと（子どもの人づき合いが心配ですか？）

「はい」と答えた世帯は全世帯の 29.9%であり、貧困世帯と非貧困世帯別の割合も同程度であるが、「いいえ」と答えた世帯は全世帯の 65.4%となっている。
 内訳は、「未就学児がいる世帯」と「高校生等がいる世帯」で 26%程度と若干少なく、「小学生がいる世帯」と「中学生がいる世帯」で 34%程度と若干多くなっている。
 心配なことの内容は、「他人とのコミュニケーションが得意でない」(55.2%)と回答した世帯が最も多く、就学状況別に見ると「小学生以上の子どもがいる世帯」ではいずれも 50%程度となっている。
 また、「携帯電話やスマートフォンがないため仲間に入れれない」と答えた世帯は 20.8%であるが、就学状況別に見ると「中学生がいる世帯」では 37.9%と突出している。
 「その他」の心配なこととしては、「ほかの子ともと遊べない」、「付き合いを制限している」、「子どもの性格、障害、病気」、「いじめや望ましくない関係」などがあった。



④ 子どもの学習に関する心配ごと（子どもの学習が心配ですか？）

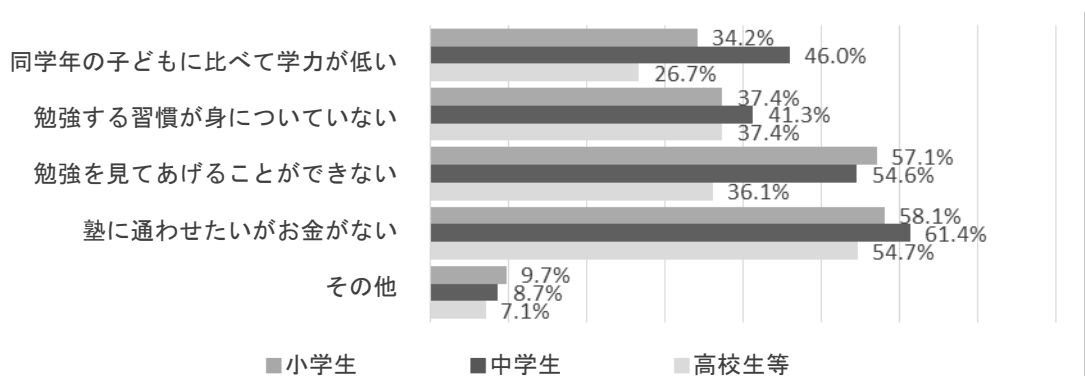
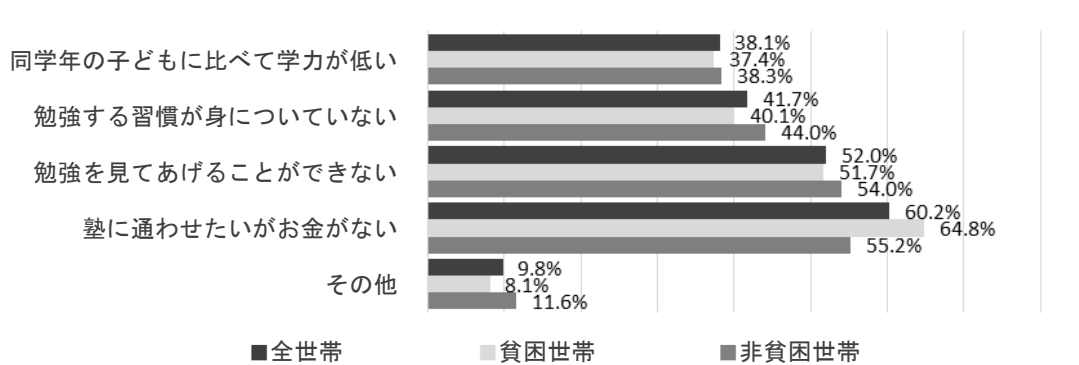
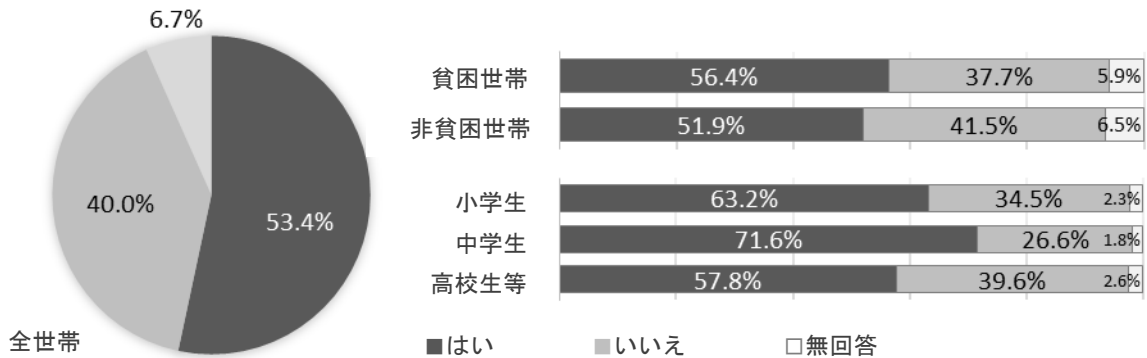
「はい」と答えた世帯は全世帯の53.4%で、貧困世帯では56.4%、非貧困世帯では51.9%となっている。

内訳は、「中学生がいる世帯」(71.6%)が最も多く、次いで「小学生がいる世帯」(63.2%)、「高校生等がいる世帯」(57.8%)となっており、貧困世帯の「中学生がいる世帯」では74.8%に上っている。

心配なことの内容は、「塾に通わせたいがお金がない」(60.2%)が最も多く、次いで「勉強を見てあげることができない」(52.0%)、「勉強する習慣が身についていない」(41.7%)、「同学年の子どもに比べて学力が低い」(38.1%)となっている。

また、「塾に通わせたいがお金がない」と答えた世帯は、就学状況別に見ると「中学生がいる世帯」が61.4%、「高校生等がいる世帯」が54.7%となっている。

「その他」の心配なこととしては、「子どもの病気・障害」、「親の関わり方がわからない・できない」、「学習環境を整えてやれない」、「不登校」、「部活との両立」等があった。



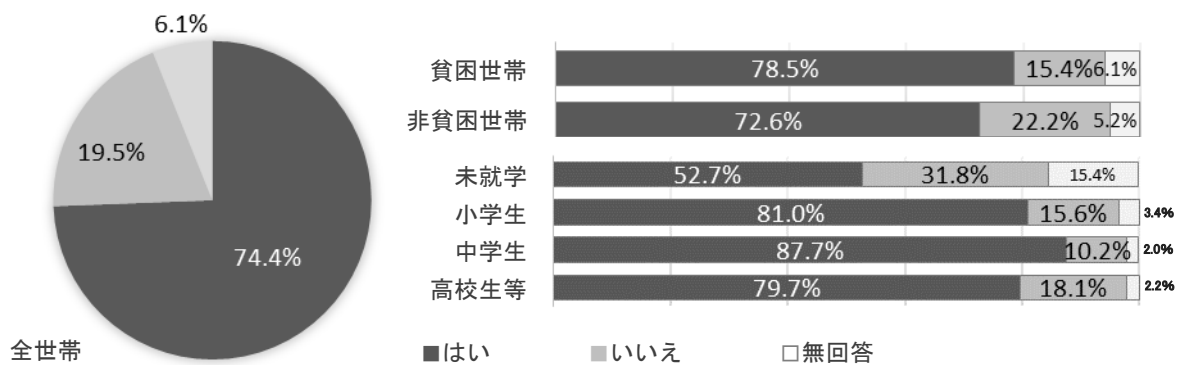
⑤ 子どもの進学に関する心配ごと（子どもの進学が心配ですか？）

「はい」と答えた世帯は全世帯の74.4%で、貧困世帯では78.5%、非貧困世帯では72.6%となっている。

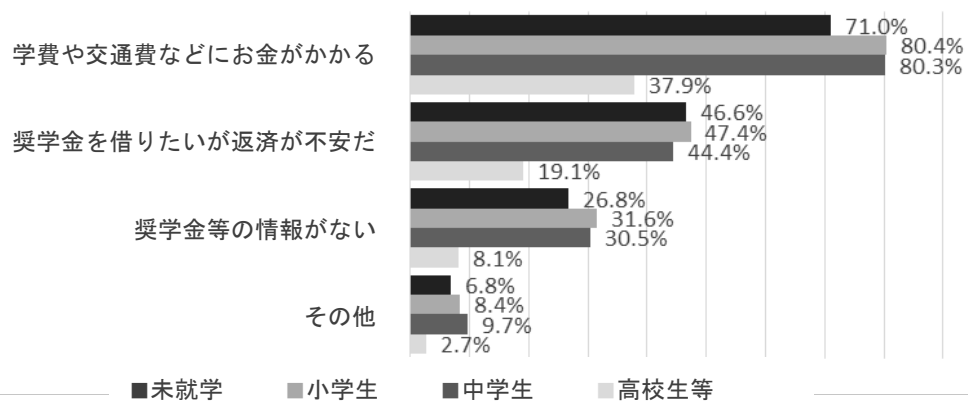
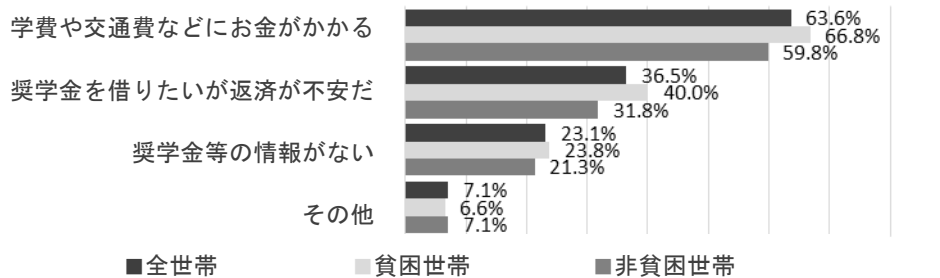
内訳は、「中学生がいる世帯」(87.7%)が最も多く、次いで「小学生がいる世帯」(81.0%)、「高校生等がいる世帯」(79.7%)となっている。

心配なことの内容は、全体では高校及び大学進学時ともに「学費や交通費などにお金がかかる」(高校進学時：63.6%、大学進学時：59.8%)が最も多く、次いで「奨学金を借りたいが返済が不安」(高校進学時：36.5%、大学進学時：53.2%)、「奨学金等の情報がない」(高校進学時：23.1%、大学進学時：23.6%)となっている。

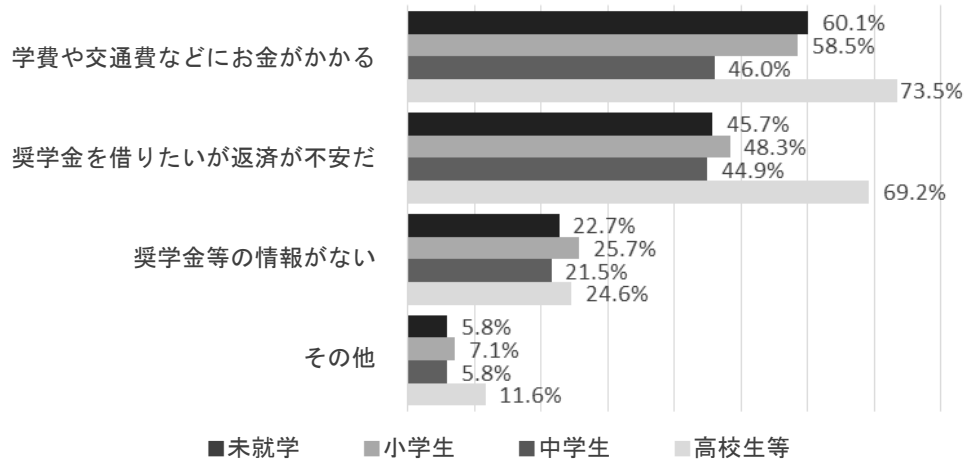
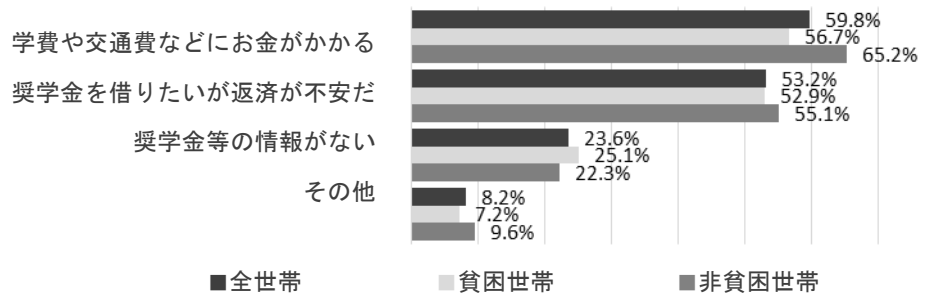
「その他」の心配なこととしては、「子どもの学力不足」、「子どもの障害」、「漠然とした不安」などがあつた。



[高校進学時]



[大学進学時]



(4) 親の悩みに関する事項について

全世帯：n=4,323、貧困世帯：n=1,905、非貧困世帯：n=1,912
 未就学：n=785、小学生：n=1,642、中学生：n=1,370、高校生等：n=1,460

① 就労に関する悩みごと（働きたい・今より高収入の仕事に就きたくてもできずにいますか？）

「はい」と答えた世帯は全世帯の54.1%で、貧困世帯では65.2%、非貧困世帯では39.5%となっており、貧困世帯と非貧困世帯で、25.7ポイントの差がある。

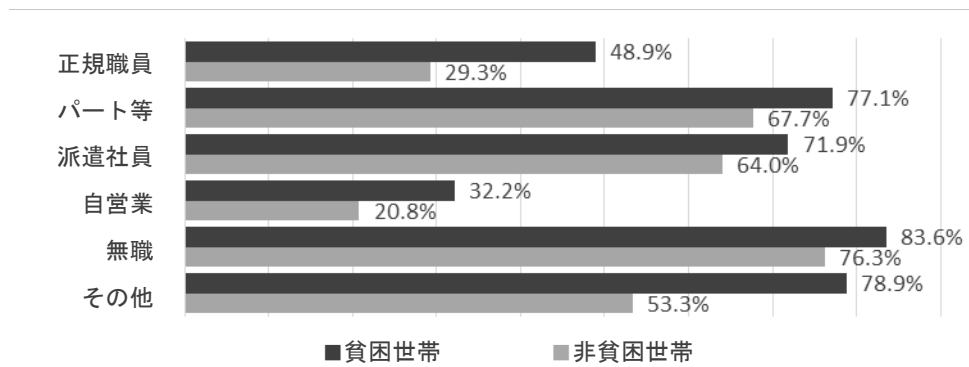
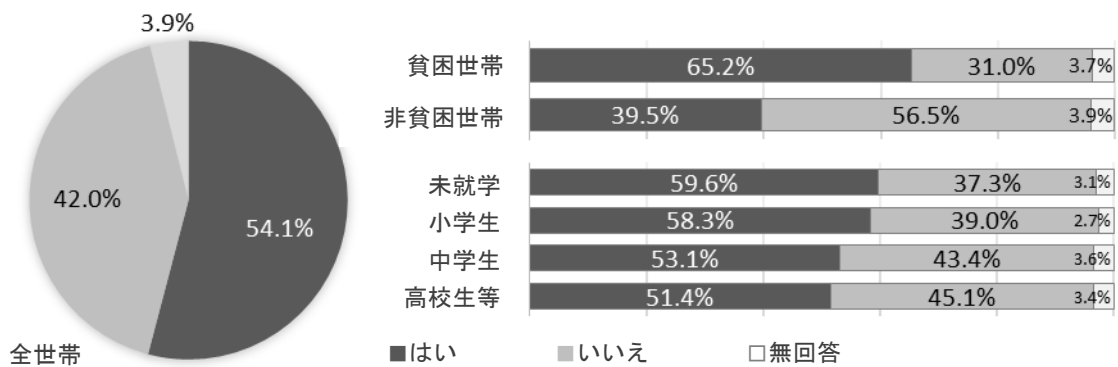
就労形態別では、貧困世帯の「無職世帯」(83.6%)、「その他世帯」(78.9%)、「パート等世帯」(77.1%)、「派遣社員世帯」(71.9%)が多く、非貧困世帯の「自営業世帯」(20.8%)、「正規職員世帯」(29.3%)が少なくなっている。

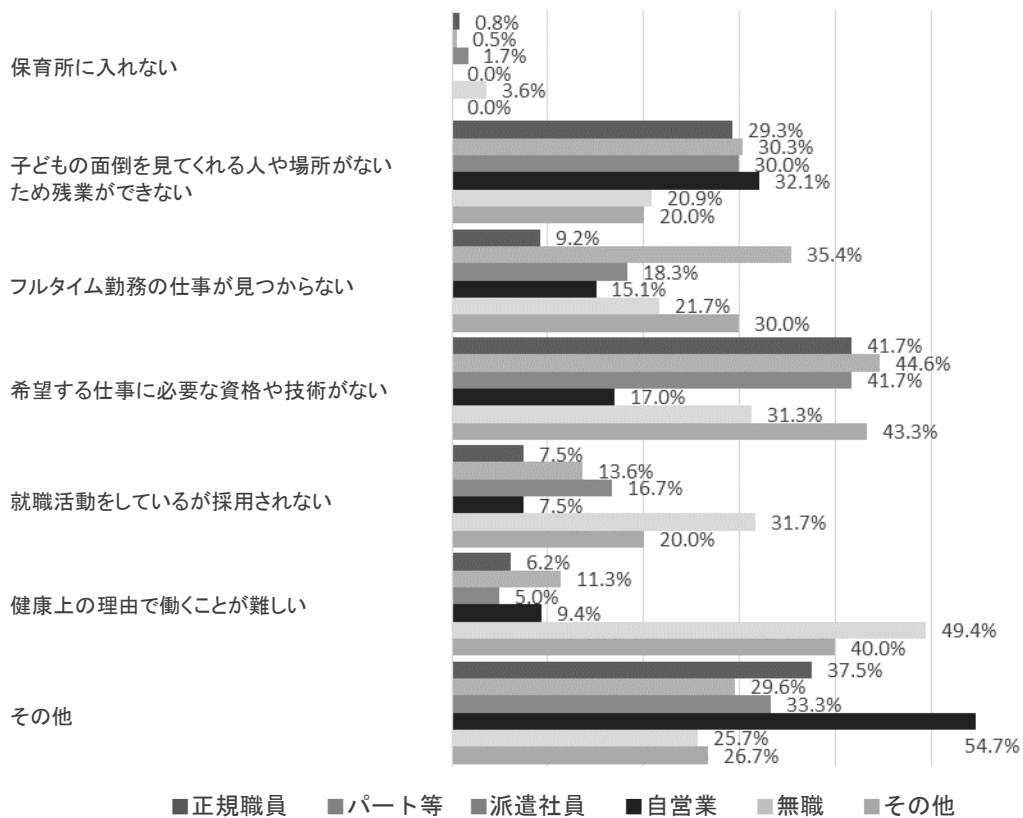
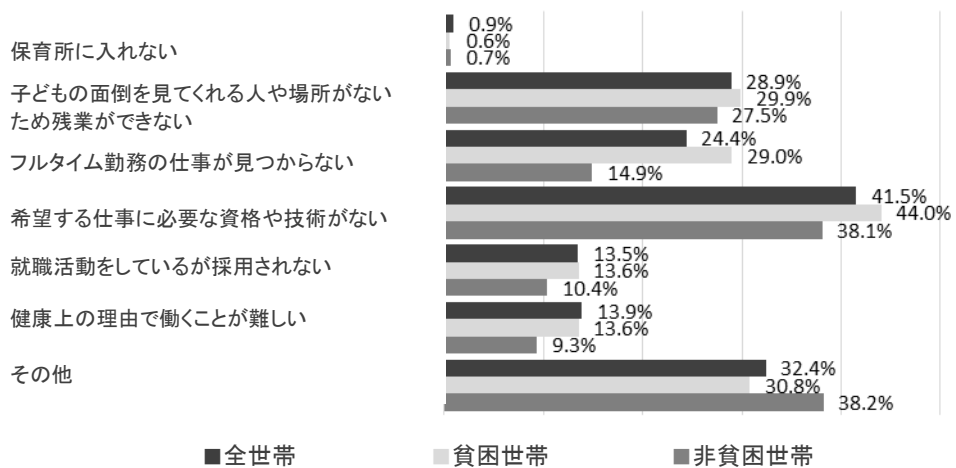
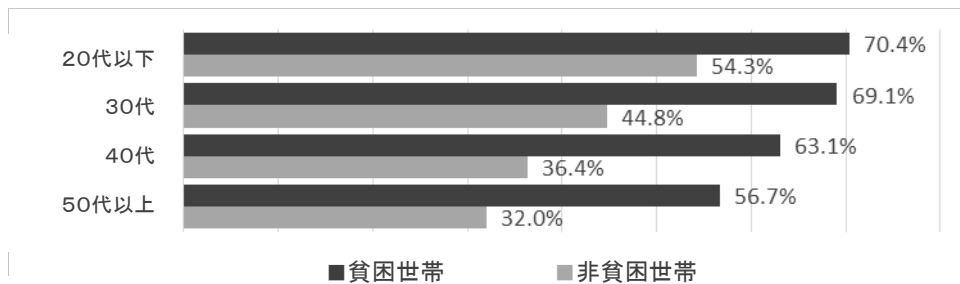
年代別では、「20代以下」の貧困世帯が70.4%と多く、年代が上がるにつれて減少し、「50代以上」の非貧困世帯が32.0%と少ない。

「はい」と答えた世帯のうち、できない理由（複数回答）は「希望する仕事に必要な資格や技術がない」(41.5%)が最も多く、次いで「子どもの面倒を見てくれる人や場所がないため残業ができない」(28.9%)、「フルタイム勤務の仕事が見つからない」(24.4%)となっている。なお、「保育所に入れない」と答えた世帯の割合は0.9%にとどまっている。

就労形態別では、「希望する仕事に必要な資格や技術がない」と答えた世帯が「パート等世帯」(44.6%)で多くなっている。「フルタイム勤務の仕事が見つからない」と答えた世帯は「パート等世帯」(35.4%)で多く、「正規職員世帯」(9.2%)では少なくなっている。「健康上の理由で働くことが難しい」と答えた世帯は、「無職世帯」で49.4%、「その他世帯」が40.0%となっている。「就職活動をしているが採用されない」と答えた世帯は「無職世帯」(31.7%)で多く、「正規職員世帯」(7.5%)及び「自営業世帯」(7.5%)では少なくなっている。

「その他」の答えとしては、「子どもとの時間を確保したい」、「子どもに病気や障害がある」、「高年齢のため採用されない」、「勤務条件が合わない」、「今より収入が良い仕事がない」などがあつた。





② 相談環境に関すること（いろいろ相談したいと思っても、できずにいますか？）

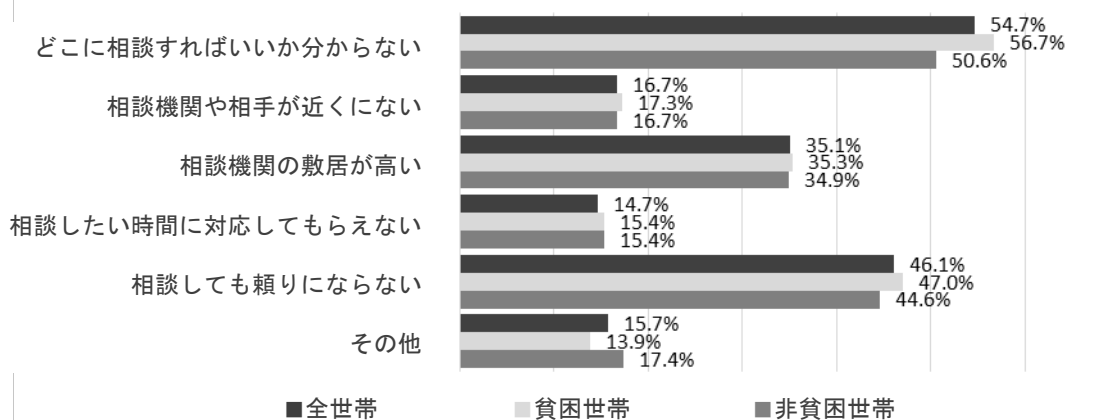
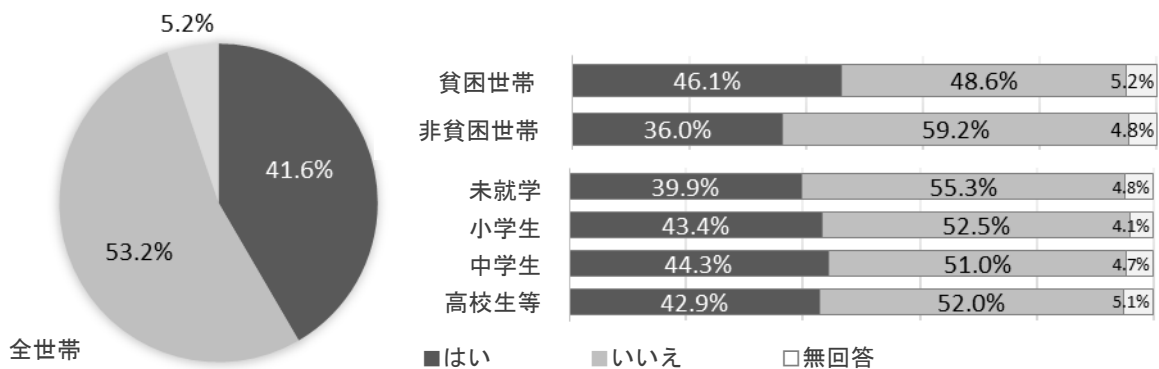
「はい」と答えた世帯は、全世帯の41.6%であり、貧困世帯では46.1%、非貧困世帯では36.0%となっている。

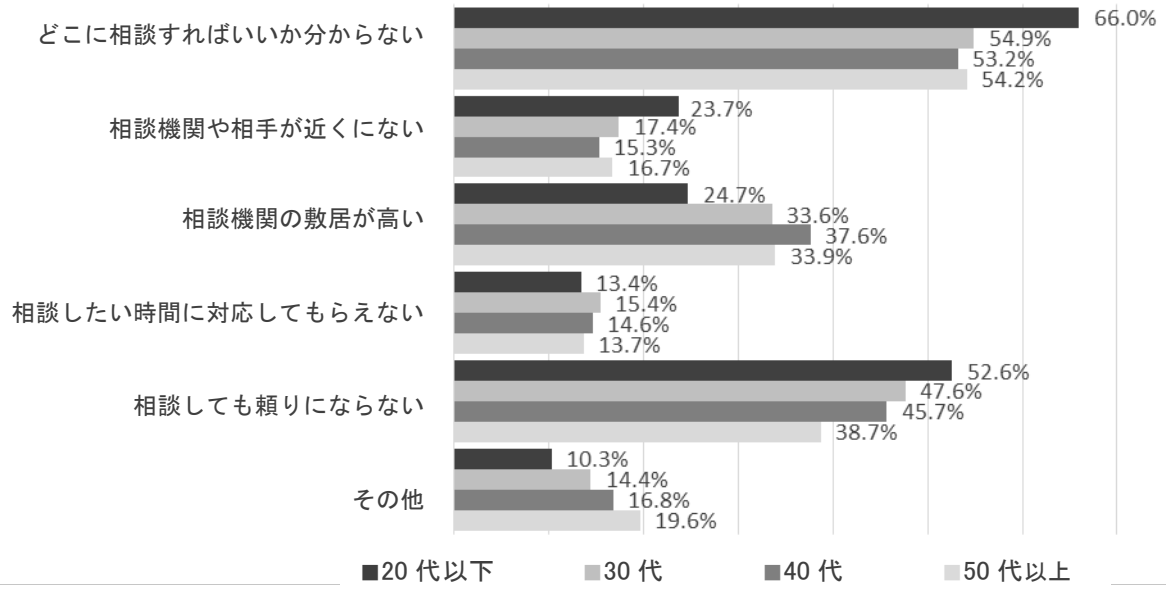
「はい」と答えた世帯のうち、できない理由（複数回答）は、「どこに相談すればいいかわからない」（54.7%）が最も多く、次いで「相談しても頼りにならない」（46.1%）、「相談機関の敷居が高い」（35.1%）となっている。

年代別では、「どこに相談すればいいかわからない」と答えた世帯は「20代以下世帯」で66.0%となっており、年齢が上がるにつれて減少傾向にあり、「50代以上世帯」では54.2%となっている。「相談しても頼りにならない」と答えた世帯は「20代以下世帯」が52.6%と多く、年齢が上がるにつれて減少し、「50代以上世帯」では38.7%となっている。「相談機関の敷居が高い」と答えた世帯は、「20代以下世帯」では24.7%であるが、「30代世帯」では33.6%、「40代世帯」では37.6%となっている。「相談機関や相手が近くくない」と答えた世帯は、非貧困世帯の「20代以下世帯」（34.8%）で多くなっている（統計表P113参照）。

「相談したい時間に対応してもらえない」（14.7%）の具体的な内容は、「日中は仕事のため夜間や休日等しか相談できないが、対応してもらえない」が多かった。

「その他」の内容は、「相談しても解決できない」、「守秘義務が守られていない」、「対応が悪い」、「事務的な対応」が多かった。





(5) 子どもの将来に関する心配ごとについて

(子どもが大人になるうえで、心配に思うことはありますか?)

全世帯：n=4,323、貧困世帯：n=1,905、非貧困世帯：n=1,912
未就学：n=785、小学生：n=1,642、中学生：n=1,370、高校生等：n=1,460

「はい」と答えた世帯は全世帯の82.0%で、貧困世帯では83.7%、非貧困世帯では81.0%となっている。

心配なことの内容(複数回答)は、「生活するために十分な収入が得られる仕事に就けるか」(75.5%)と答えた世帯が最も多く、次いで「人との関係性を円滑に築ける社会人になれるか」(60.8%)、「就職するために必要な学力が身につけられるか」(60.4%)となっている。

子どもの就学状況別では、「生活するために十分な収入が得られる仕事に就けるか」と答えた世帯は、「未就学児がいる世帯」が66.0%で、子どもの年齢が上がるにつれて上昇し、「高校生等がいる世帯」は81.2%となっている。

「人との関係性を円滑に築ける社会人になれるか」と答えた世帯は、「未就学児がいる世帯」が67.6%で、子どもの年齢が上がるにつれて下降し、「高校生等がいる世帯」では56.7%となっている。

「就職するために必要な学力が身につけられるか」と答えた世帯は、「未就学児がいる世帯」及び「高校生等がいる世帯」で50%台であるが、「小学生がいる世帯」及び「中学生がいる世帯」で65%を超えている。

